

幼 兒 教 育

第 三 十 四 卷 十 一 月 號 第 十 一 號



東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內
日 本 幼 稚 園 協 會

東京高等師範學校教授 文學博士 小野島右左雄先生著

好評 三版

最近心理學概説

文檢必 讀の要 書最近 の心理 學漸く 完成す

上卷 定價三圓五十錢 送料二十二錢
 下卷 定價三圓五十錢 送料二十二錢
 合輯 定價五圓八十錢 送料三十三錢

本書の最も特長とすべき點は全卷一貫せる思想を以て凡ゆる精神事實を巧に解明し全卷暗示に滿ち本書上下二卷を味讀すれば一般心理學・兒童心理學・青少年心理學・發達心理學・個性心理學・社會心理學・變態心理學・動物心理學・教育心理學等の凡ゆる心理學の一般知識を獲得すべきは勿論、學者は本書に依つて斯學の一體系を知るに止まらず科學の方論・生活論理學の成立と新しき哲學の暗示を受け、教師は生徒兒童の心的體制の理論と教育の新方法を教へられ、一般人は人間の具象的心的體制の最も即事的なる論理と應用を示され斯くてこそ心理學は科學の先陣に立ち此思想國難の打開に資す。振つて萬人の乞必讀。

性格心理學と兒童研究

菊判全一冊洋綴 定價二圓七十錢 送料廿二錢

心理學要論

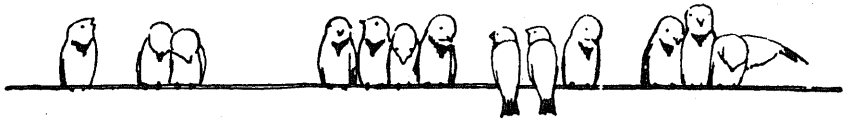
菊判全一冊洋綴 定價二圓 送料廿二錢

兒童研究、性格心理學に主點を置き各種の新研究を發表し、猶ほ最近心理學の動向を検討して最も斯新なる斯學上の諸問題を提出し之等に對し教授獨自の立場を展開してその進展に寄與すれば一般心理學徒及び教育家篤學者の御必讀を乞ふ。

現代の科學的心理學の一般理論を一つの軸となる體系の中に織り成して叙説せる心理學の要論である。舊來の陳腐なる心理學の形骸を脱して現代將來の人間の動向を正しく理論づけべく、終始一貫せる主張の下に正確なる科學の所産を披瀝し猶ほ常に豊富なる暗示を與へてある。

文士學博 小野島右左雄著

發行所 東京市牛込區 中野文館書店 電話 振替 東京三三三 二五七番



號一十第 育教の兒幼 卷四十三第

—(次 目)—

| | | | | | | | | | |
|----|----------------|------------|---------------------|----------|---------------|----------|---------|----------|---------|
| 口繪 | 卷頭(飛びついて来た子ぎも) | 光榮の「オモチヤヤ」 | 都市に於ける幼児の健康増進施設に就いて | 座談會記事 | 英國に於ける幼児保育の發達 | 兒童心理學文獻抄 | 兒童晴れ着 | 案圖やさか皿 | 童王女の猫の話 |
| | 倉橋惣三(一一) | 倉橋惣三(二) | 牛島隆則(八) | 青木誠四郎(元) | 白根孝之(元) | 牛島義友(咒) | 津田芳雄(畜) | 白根美智子(丑) | 中野好夫(空) |

◇よれらみ試に常はトステ能性の兒愛◇

奈良女高師教授 本庄精次先生撰 (幼稚園及び小學校下學年級應用)

【來出刊新最】

幼兒性能検査用紙

全體畫用紙印刷
簡明圖解採點表附
定價 5 錢 送料 2 錢

愛兒の將來
を決定する

幼兒の性能を検査するテストは極めて微妙な考察研究を要することは云ふまでもない。本庄教授が畢生の事業として之が方法を完成した事は幼學年教育の爲めに慶賀に堪えない。テストは本來個人的に行ふを可とするもその繁煩な忍耐に堪えきれない。著者は茲に幼稚園及小學校下級の學童を團體的に検査するテストを選定し未だ斯界に企圖されてゐない教育界の一缺陷を補つてゐる。検査用紙は兒童用、検査法指導書は教師用でこれには使用法を懇切に説いてある。この二著を併用さるゝ時は幼兒教育の上に、一大エポックを劃すること疑ひない。

正確なテスト
は本紙で
試みられよ

【刊 新】

幼兒性能検査法指導書

定價 十五 錢
送料 二 錢

廣島高師教授 佐藤熊治郎先生著

四六判洋書函入 定價各一、五〇
紙數各二〇〇頁 送料 一四

〔再 版〕 (學校家庭必備)

誕生から大人になる迄

本書は心理學者の心理學ではない、家庭の親學校の教師としての覺書である。理論を知るは易い、實際に當面する事の難きを幾多貴重なる體験から識されたもので、學理的な係數は實に本書にしてその活ける深義を解説される。超理論の育児要諦、國民教育須要の基礎は既刊書と俟つて茲に樹立さる。

〔國民教育の中心問題、其の五〕

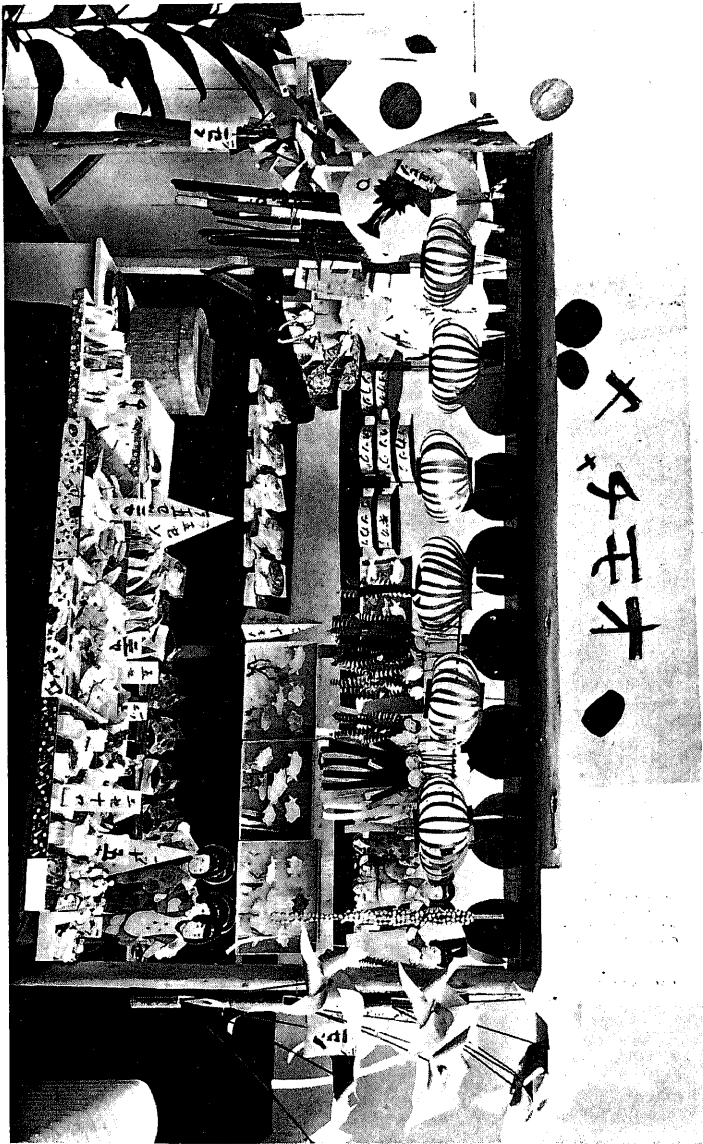
行發店書黒目

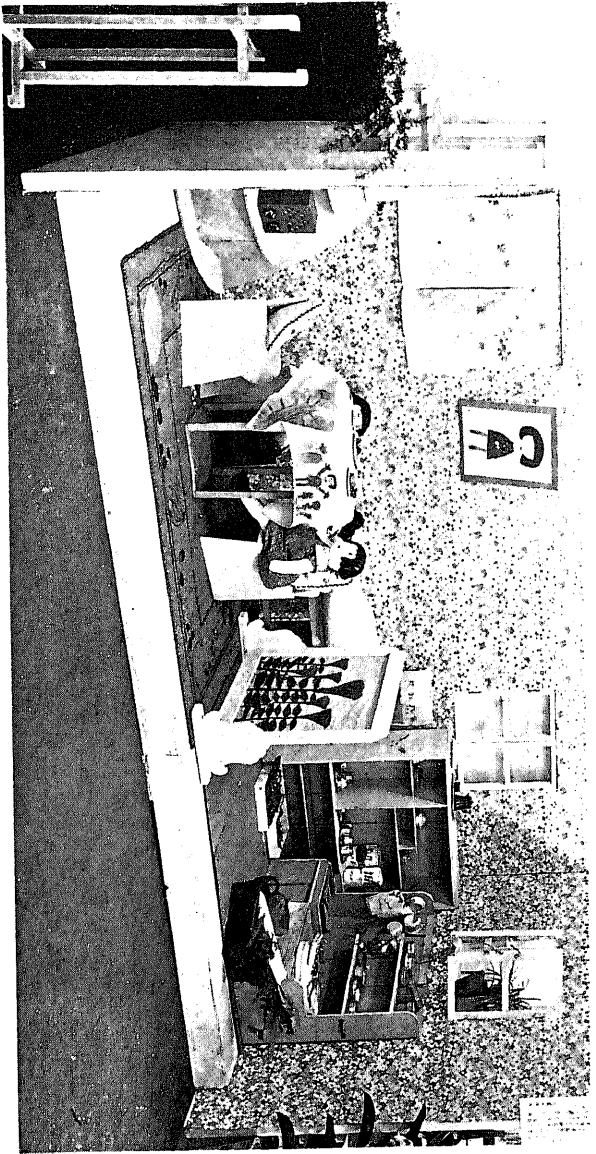
三臺河駿・田神・京東
九〇八二京東 九〇八二京東

一、おもちゃ屋あそび

— 目的保育の一例 —

店頭の商品一切、貨幣其他分な幼児の長い間の製作
であります。いよゝん是から賣手、買手に分れて幾
日間の大賣出が行はれます。





二 人形のお家

(まよごころ)

— 生活保育の一例 —

額、衝立、窓掛、敷物、

クッション、時計等の繪

模様は皆幼児の下になつ

たものであります、今し

がたまでお客様つこな

して遊んでおたしとろと

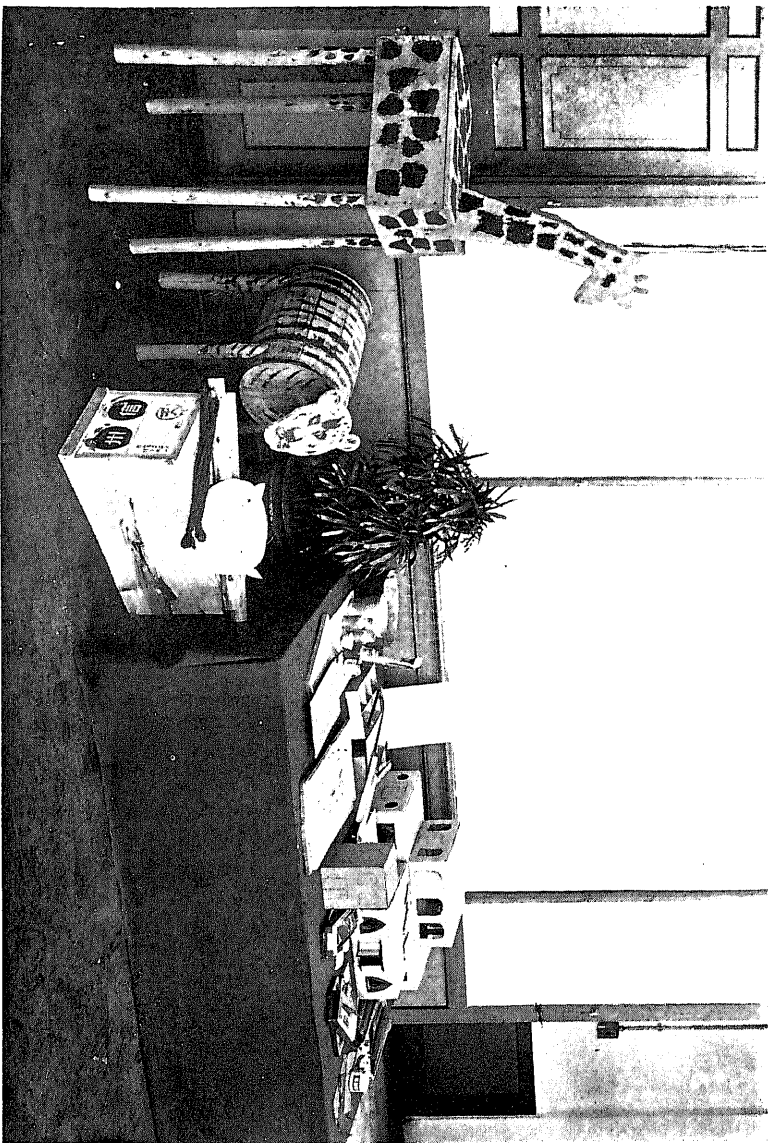
御覽下さい。

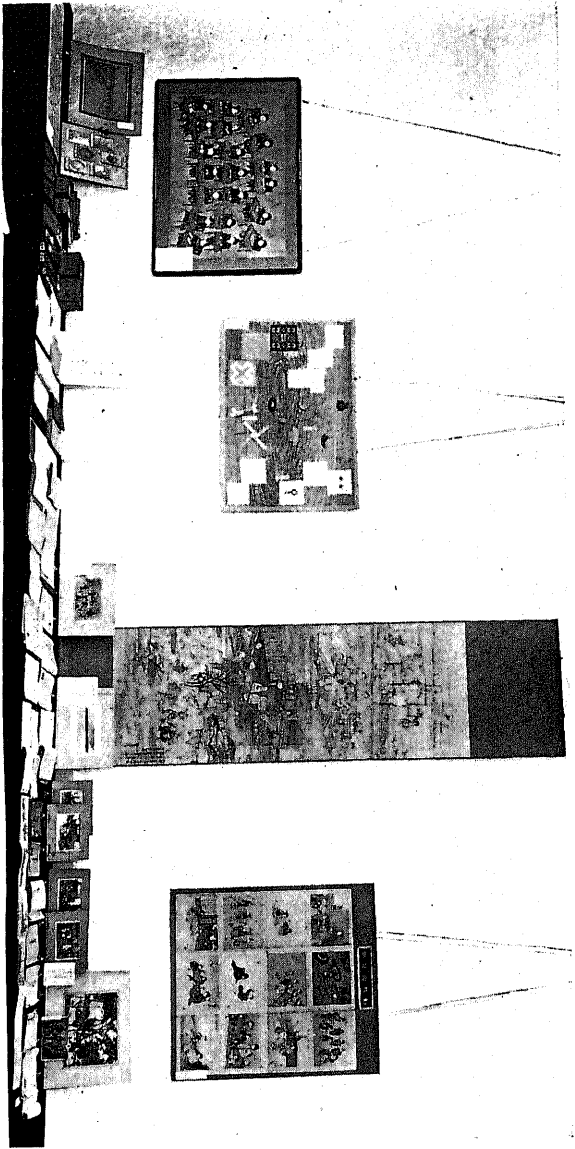
三、木の仕事及び紙の仕事の工程

—— 大きい手技の一例 ——

器用繊細な指先の手技でなく、力いっぱいする製作であります。動物の顔、塗り上げ、窓の切り抜き等幼児がした仕事であります。

鋸も金鋸も使いません。材料はなるべく古箱等の不用品を利用します。





四、本園の歴史を語る初

めの数章

軸及び額

イ、開園當時の恩物手技

ロ、昔の幼児の手技

ハ、幼稚園の圖

ニ、幼稚園雙録

圖書

寫眞

開設當時の幼稚園唱歌

手記

恩物數種その他

幼 兒 の 教 育

昭 和 九 年 十 一 月

飛 び つ い て 來 た 子 ども

子ぎもが飛びついて來た。あつこ思ふ間に、もう何處かへ馳けて行つて仕舞つた。その子の親しみを氣のついた時には、もう向ふを向いてゐる。私は果してあの飛びついて來た瞬間の心を、その時ぴつたりこ受けてやつたであらうか。それに相當する親しみを應じてやつたらうか。

後でやつこ氣がついて、のこく出かけて行つて、先刻はさいつたところで、活きた時機は逸し去つてゐる。埋めあはせのつもりで、親しさを押しつけてゆくこ、ひつこいさいつた様の顔をして逃げていつたりする。其の時にあらずんば、うるさいに相違ない。時は、さつきのあの時であつたのである。

いつ飛びついて來るか分らない子ぎもである。

光榮の「オモチヤ」

倉橋惣三

二

十月二十九日、東京女子高等師範學校の開校六十年記念式が擧げられ、畏くも皇后陛下の行啓を仰ぎました。その日の盛大な諸般の状況は、茲に一々記す暇がありませんが、幼稚園に關する部分だけを、書きとめました。しかもそれは、全體の中でも特に有り難い輝かしい記録なのであります。

御座所で拜調を賜はつた時から、私の胸はもう一ぱいになつてゐました。式場では、それがわれ識らず込み上げて來て、國歌を合唱しようとする聲が出せないのです。令旨を賜はつた時の玉音のあのけ高かさ。涙なごいふ字を用ゐては畏れ多い。曇つて來る眼鏡を拭ひようもなく、玉音の裡にたゞ頭を垂れてゐました。令旨が終つて、校長の奉答辭の間であつたかと思ひます。やつこ仰いで玉姿を拜しようとした私の目は、すぐ前に直立の姿勢を執つてゐる小學校の一年生の子どもの手の微かに震へてゐるのを見ました。此の小さい兒童達も、畏さこ有り難さに、さつきから身をふるはせてゐたのでした。

○

陛下の御退場の後、私は陳列室の方へ急ぎました。

幼稚園の陳列室は、すつこ奥の第五室目です。朝日を一ぱいに受けてゐた時は少し強過ぎるかと思つた光線が、丁度いい具合の軟かさに茶の窻かけを透して部屋中に流れてゐました。その比較的廣々とした室の中に、入口左手の壁に沿ふ

て、間口二間程の「人形のお家」ミ、間口七尺餘の「オモチャ」ミが建てゝあり、入口右手には、廊下側の窓を瀟洒な手作りの懸布で覆ふた前に、木で作つた大きな麒麟ミ虎ミ、それを作る材料ミ道具ミ、それから大きなボール紙の家ミ、それを作る材料ミ道具ミが置かれてあり、もう一つの壁の方には、「本園の歴史を語る始めの數章」ミいふ題下に、古い史料が陳列してゐるのです。

私は入口に近く一人立つて、陛下の御巡覽をお待ちしました。「人形のお家」では、小さい椅子に掛けた二人の縫ひぐるみ人形が、卓子を隔てゝ、ほんまうに靜かな聲で今日の喜びを話しあつてゐます。「オモチャ」では、店柱につるされてゐる國旗や紅提灯が、微動だもない空氣の中に、明るい賑かな色彩を漂はせてゐます。麒麟は木箱の胸から長い首を伸ばし、虎は釘樽の胸に愛嬌のある圓い顔を縮こめ、ボール紙のビルヂングは小さい建築技師の手で切り抜かれた一階二階の窓ミいふ窓を皆開いて、私共にも、陛下の御靴の音をお待ち申上げて居ます。私も式場ミはすっかり違つた心持ちになつて、幼稚園の幼兒達が斯ういふ時にもつであらうような心持ちになつてお待ち申上げてゐました。少くも、此の室では、さうでなければならぬ、自分を氣輕くさせることにつこめました。

○
さうで、微かな蟲の聲らしいものが聞えてゐます。

こゝで一才幼稚園の幼兒達のことを記して置きます。この日幼兒達は式場には入りませんが、講堂の入口に近く並んで、お通りすがりを拜することになりました。その位置は講堂入口にお曲りになる前、長い外廊下をお運びになる御通路の真正面に當つてゐます。即ち、畏れ多い程長い間、陛下の玉歩を正面からお迎へ申上げる位置になつてゐます。しかも、幼兒のこゝですから、御無禮のない限り、餘り堅くならず、平常のあざけなさのまゝでお迎へ申上げた方が、却つて

御心にななふこころであるまいか考へて、保姆諸君も豫め打ち合はせて置いたのでした。私は式場にあつてその場所には居りませんでした。後で保姆諸君から聞くところによります。陛下には長い廊下の向ふから、直ぐに此の小さいもの群をお見せになり、御にこやかに笑ませ給ひながら、玉歩をこちらに進ませられ、幼児達が最敬禮をいたした時は、暫く御立ち止りにさへなつて御會釋を給ひ、更に講堂入口の方へお曲りになつてからも、再び御にこやかに振りかへつて幼児達を御覽遊ばされ、畏くも玉顔の殊の外に御うるはしきを拜し奉つたさいふこころであります。幼児達の心にも、保姆諸君の心にも、此の貴い有り難い御姿が、如何に深く印象づけられたこころであります。實は、此の日保姆諸君が幼児と共に場外にあつて、晴れの式に列し得ないさいふこころは、私にして可なりに心を惱ませるたこころであつたのです。それが、斯くも御間近かに、殊に子ぎも達のために打ち笑ませ給ふをさへ仰ぎ拜し得たさいふこころを後に聞いて、保姆諸君の心からなる喜びに、私もやつこころを安んずるこころが出来たのであります。

○
幼児達はそれから體操遊戯場の方へ集つて、小學校の低學年と共に「日の丸行進」を御覽に入れました。

話を陳列室へかへします。

陛下には、本校、高等女學校、小學校と、各室の陳列に御興味の深かつた爲、豫定の御時刻よりは少し遅れて、幼稚園の室に成らせられました。御先導の校長の命によつて、私から御説明を申し上げるようによここころでしたが、次の體操遊戯台覽の御時刻も迫つてゐましたし、私は差控へ差控へて、つめて多くを申し上げないように心しました。それでも、陛下は、いさも御感興深く此のあきけない幼児の世界に時を御過し遊ばされ、幼児の製作品にお手をさへ觸れさせられ、一愛らしげにみそなはせられますので、私もつい何彼も御説明申上げて、こころでも豫めの心づもりの時間よりは、すつこ

御超過になりました。

「人形のお家」では、人形の顔(幼児の原圖)に御顔を寄せて御覽になりました。時計の五時と六時とが妙なところになつてゐるのもお目にこめられました。臺所になつてゐる方の食物箱に柿やさんぐりの實のあるのを御指さし遊ばされて、女官の方と打ち笑まされました。幼児の作つた青色の魚をさん、まだそうで御座いますと申上げましたら、お笑ひ遊ばされて御手づから同じ籠の中にある妙な形のを取り上げて御覽になつたりしました。

「オモチャヤ」は、「人形のお家」の現代式なのに對して、磨き丸太の店構へから紅木綿の暖簾まで、全體が江戸趣味の下世話風に出來てゐるのが、先づお目をひいたようにも拜しました。澤山に竝べてあるいろくくの玩具は、皆幼児が一ヶ月餘を重ねて作りためた製作ばかりです。そのあれこれにお手をつけられ、側の皿に紙の小錢なごもあつて、これから賣り買ひが始められようといふ仕組みにも、御興深げに御うなつき遊ばされました。私は此の保育原理になつてゐるプロヂエクト、メソッドに就て御説明申上げようかとも思ひましたが、そんな理窟はごこかへ消えて、唯にこくを溶けて居りました。そして、之れをお小さい宮さま方にお目にかけていたような氣が致しますといふような言葉を、つい申上げて仕舞ひました。しかも、それと同じ瞬間です。校長からも皇后太夫や待從に、之れを宮様方に献上いたしてはと申出でられ、それはきつとお喜びになりませうといふやうなお話があり、その場で私にも傳へられたのでした。素より豫め期してゐないことです。陛下の御興味に甘え奉つたような突然の出來事です。私のその時の感激はごんなでありましたらう。それにしても、何んといふ光榮の「オモチャヤ」なのでありませう。

木の製作と紙の製作とは、昔の保育法と違つて、大きい手技、力の籠つた仕事といふところに要點があります。之れに就ては、史料として列べて置いた昔の幼稚園の維細な保育法と比較して、少し理論めいたことを申上げました。陛下は御

説明を御聴取遊ばされた後、御手を舉げて麒麟の首にお觸りになつたりしました。その首や顔には黄の繪具が粗つぽく塗つてあります。白革の御手袋……私はハッとしたことでありました。

古史料に就ては、御興味さいふよりも、精細にお目をさめられました。そこには明治九年開園當時の園舎の寫眞、當時の職員の寫眞、園舎内部の設計圖、當時の保育狀況の寫生圖、幼児の製作品、當時の保育書や保姆の手記類さいふ様な、従て苦心して蒐めてありました幼稚園教育史の資料の一部を列べて置きました。そんな研究的のものにも、斯くもお目をさめられましたことは、誠に有り難いことであります。

○

さて、光榮の「オモチャヤ」は、三十、三十一日の兩日陳列の室にあつて校内の觀覽に供せられた後、十一月一日、校長が皇后職の方々へ御挨拶に參られるのさいつしよに、私と及川保姆とで大自働車一ぱいに積み込んで持つて上りました。そして、消毒所で消毒して頂いた後、皇后職の人々の手を借りて組み立て、及川保姆が一つも通りに飾りつけました。それが組み立て上げられたのが四時をすつと過ぎてゐましたし、私達は其の日はそれで退出致すことと思つて居りましたのに、直ぐそれが大勢の仕丁の手で大奥に運ばれました上、特に竹屋女官長を通じて、皇后陛下からの有り難いお言葉を賜はりました。私達が恐懼して、それにお答へ申上げましたお禮の言葉が、全園の幼児達の代表としてあつたことは申すまでもありません。阪下御門を出てから始めて我れに歸つたらしい及川保姆は、小雨にうるほふ夕闇の自働車の窓の中で、なんだか夢のようで御座いますと、獨り言のやうに言つてゐました。幼稚園へ歸りましたら、玄關も主事室も職員室も、電燈が煌々ともつてゐました。保姆諸君が、今日のお模様を聞かすには歸れないといつて、皆揃つて、待ち受けてゐたのでした。

ほんまうに光榮の「オモチャヤ」よ。お前はその後、御殿のきこで、ごんな光榮に浴してゐるのか。幼稚園から陳列室へ、陳列室から大奥へ……。急に思ひがけない出世をした「オモチャヤ」の、あの赤い紙獨樂が、派手な着物を著た切抜き人形が、黒く塗られた水兵帽が、金紙の貼られた劍が、絲に通してあるジュヅ玉が、千代紙の箱の中に入れられてある顔入りの銀杏の實が、花笠が、風車が、ごごもの書いた「オモチャヤ」さいふ看板の下で、つゝましく、しかし相變らず少しおぎけて、ごんな顔をして列んでゐるきこであらうか。私達は、お伽話の中のきこのような、ほゝ笑ましいイマジネーションに驅られずにゐられません。多分ごなたにしても同じきごだご思ひますが、私が御進講のために召されます時々、漏れ承りますきこころでは、宮さま方も大層お喜び遊ばされ、お遊び道具になつてゐるさかいふ趣きであります。ごこまで光榮の「オモチャヤ」。仕合はせものゝ「オモチャヤ」なのであります。

皇后陛下には、先般來倉橋惣三氏を召されまして、毎月曜日、兒童の教育に就ての連續の御進講を御聽取の趣に承つて居ります。

國母陛下として、御慈愛深き御母君として、斯の道に對する、いつもながらの御熱心なる思召には、誠に恐懼にたえません次第であります。

(編者)

都市に於ける幼児の健康増進 施設について

京都市永觀堂幼稚園 牛 島 隆 則

本篇は昭和九年十一月大阪市に於て開催せらるゝ市立の全國保育大會に吉備保育會より提出せられたる「都市に於ける幼児の健康増進上効果ありと認められたる施設事項を承りたし」との問題につきての答解にして何れ全國保育關係者よりそれぞれ有益なる答解ある筈ならんも、本園は創立最初より健康第一主義を目標とし永觀堂境内の環境と施設を應用して滿四ヶ年餘の實蹟に鑑み、聊かなりとも御參考になれば幸ひと存じ獨自の立場に於て不敏をも顧みず、貴重なる本誌の餘白を拜借して本問の答解、若干の所見を加へ拙文を綴りたる次第なり、依て不都合の點あらば先輩諸賢の御教示を切に希望して止まず。

一 緒 言

從來我國に於ける幼児に對する養護施設其他に關しては一般に等閑に附せられ、從て其進歩遅々として進まざりしが最近に至り幼児教育の必要を認められ、幼児と離るべからざる母の教育の必要なる事が盛んに主張され、母の會とか母の再教育とか色々の名稱の許に母に關する諸般の研究發表なきを見るに至れり。

先般、皇太子殿下御降誕奉祝の爲め「子供の愛護と母親の爲めに使へ」の思召で御下賜の多額の金員により、恩賜財團愛育會なる者の創立を見るに至れる事は如何に幼児の愛護が國家將來の爲め必要なるかを立證するに足る。

我が保育界に於ても最近幼児の健康増進に關する問題が色々の會合の都度研究せられつゝある事は、幼児教育に關係せ

る吾々共の大に欣喜に堪へざる處なり。昭和七年十月には京都市に於て開催せられたる關西保育聯合大會の際に大阪市保育會より

『保育上健康増進に就きて最も効果ありと認めらるゝ事項特に都市幼稚園に於て夏期休暇中の保育と其施設を承りたし』の問題が提出せられ、當時各保育會より其れく有益なる答解が與へられたるなり。更に本年十一月大阪市に於て開催せらるゝ豫定の全國保育大會に吉備保育會より

『都市に於ける幼児の健康増進上効果ありと認められたる施設事項を承りたし』

と云ふ問題が提出せられたり、今回も全國各保育關係者より有益なる研究事項の發表あらんことを大に幼児教育界の爲め祝福して止まざるなり。

二 煤煙の大阪

今回の主催地は大阪市なる故、當市の環境が幼児に對し如何に不健康地であり、如何に非衛生的なるかを未だお承知ない方々の大體諒解し置かれる事は本問題の研究上無益ならざるのみならず、大阪市保育關係者が日夜幼児の健康増進に關し、如何に苦心し頭を悩まされつゝあるかを充分察知し得る材料にもならんかと思ひ單簡に一、二の事項につき左に述べらる事とす。

自分は二十年餘も大阪砲兵工廠に在勤せし故、如何に彼の煤煙や塵埃なきが保健衛生上に惡影響を及ぼす者なるかをよくよく承知せるなり、今左に一例を示せば

日露戰爭當時の砲兵工廠は國を賭しての戰爭の事なれば、彈藥其他各器の供給は晝夜兼行しても尙且つ戦場の要求に應ずる事能はざる状態であり、従つて工場は土地の許す限り擴張に擴張を進め其結果煤煙や塵埃は遠慮なく飛散し、無

論當時は煤煙や塵埃なきに關しては毫も眼中におかざりし事は事實なるも豈計らんや、戦争終了後一、二年を經過する間に、工廠内に數十餘年の星霜を経たる美事な松樹などは、無慘にも殆んき大部分煤煙の爲め枯死の已むなき最後に到達したるなり、こゝに於て斯く迄に煤煙が樹木を害するならば、吾々従業員にも如何に有害なるかを痛感させられ、依て早速煤煙防止問題の研究に進みたる事實を有せるなり。

大阪に住まざれば分らぬ事實なるが、丁度日露戰爭中、日夜工廠勤務終りて家に歸り、洗面の折、鼻の中は丸で煤煙を以て充たし、たんを吐けば丸藥の如き黒き柔き塊出づ、最初は如何にも氣味悪く軍醫に聞いて見れば「それは煤煙の塊りだから心配はいらない」この事にて初めて安心せる如き経験もありき。

當時自分には一人の男兒(三十六年六月生あり、ツクム)大阪は幼兒を育つる場所ならざる事を痛感せしも、大切な御奉公の身にて自分の我儘身勝手を云ふべきでない事を決心し、遂に二十年餘の永き年月を砲兵工廠の煤煙の中で暮す事となりたるなり、そこで大阪の幼兒が如何に不健康の環境にあるかは充分に察知し得る次第なり。

更に大阪市に於て先年名古屋市衛生博覽會に發表せる室内侵入煤煙、塵埃等の調査成績は左記の通りにして一層具體的に大阪市は煤煙や塵埃の市街地なる事が明瞭になると思ふ。

(大阪市内侵入煤煙調査表)

| 区分 | 成績 | | 計 |
|------|---------------|--------------|-------|
| | 煤煙粒數 (平均數) | 塵砂數 (平均數) | |
| 住宅地帯 | 五四八〇 | 六四六二 | 一一七四二 |
| 商業地帯 | 六二九五 | 七五六五 | 一三八六〇 |
| 工業地帯 | 二三八八三 | 二二四五五 | 四六三三八 |

本表の平均數は家屋の窓前二尺の位置に於ける一〇〇平方
 櫃上に一日間の蓄積量なり。

この成績表によつて見れば大阪市の幼兒は毎日々々本表が
 示す如き煤煙、塵砂の内に二六時中起居し、一方交通發達の
 關係上、電車、自動車等の絶へざる喧噪の内に生活しつゝあ

る状態なる故、如何に幼児の健康増進の困難なるかを察知せらるゝなり。

三 都市の幼稚園

次に都市に於ける幼稚園の一般状況、主として大阪市につき單簡に記述すれば

(一) 大阪市の中央部——土一升金一升の高價の地價を有する處に於ては元より園舎の地域も狭き範圍に制限せられ、殊に小學校に附設せる幼稚園に於ては其傾向著し、然して園長は小學校長の兼務なるを以て勢ひ小學校中心に取扱はれ屢々犠牲となる爲めに幼稚園の蒙る迷惑も少なからず。

(二) 地域狭き爲め思ふ存分運動する事能はず、室内にては附近の高き建物に制せられ、換氣、採光充分なるを得ず随つて必要に應じ晝間電燈を點ぜざる可からざる處も少なからず、これ等は地方人の想像も及ばぬ珍らしき現象なり、晴天の時も雖も室の内外を交代して使用せねばならぬ關係上落ち付きて何時迄も好きな運動具や玩具なきを使用して遊ぶが如きは不可能なり。

(三) 偶々一日一組の幼兒を靜かに心行く迄遊ばせんじ計畫をなし二階の屋上なきに行き或る程度迄幾分の刺戟をさけ満足を與へる事あるも、晴天の時なき運動の程度によつては汗の出る事あれば、煤煙や塵埃なきで汚れたる手にて顔を拭く故に、顔も手も眞つ黒くなり整容の際なき姿を寫してお互に大笑をなす事なきは屢々遭遇する事實なり、故に雨後庭園の乾くを待つて昇るを常とするなり。

(四) 以上の如く繁華なる地程塵埃多く随つて諸種の黴菌多く散亂し爲めに虚弱兒童並に抵抗力の少なき一般兒も傳染性疾患なきに侵されるこも少なからず。

(五) 夏期の施設として僅か一週間にても新鮮の空氣に浴し臨海の林間保育を實施し自然に親みたる結果、多きは

疝を増加し、少きも〇・二疝まで殆んど全員の増加を見一人の減少者なりし事が關係者一同に非常な満足を與へられたる實例もあり。

之を要するに他の都市にあつても大體に於ては大同小異ならん。

四 本園の効果

昭和五年九月永觀堂幼稚園を創立するに當り、幼児の健康増進を第一主義として都市の虛弱兒を一人にても健康に導く事を以て本園の使命の一つとせざるなり、然して都市に於ける虛弱兒童は毎年増加の趨勢にありて、自分が調査せし結果によれば全國五大都市(東京、大阪、名古屋、京都、神戸)中兒童の健康状態第一位を占めつゝある京都市にありても約三十%弱に相當せるなり、然して幼稚園時代の虛弱兒を健康に導く事は保育に従事せる吾々お互の重大なる任務であり責任とする處なり。

本園は創立後滿四ヶ年餘を經過せし間に於ける健康増進上に對する幾多の實例を有するも、茲には單に抽象的に效果ありし事項のみを示せば

普通一般の虛弱兒は勿論、食慾不進、血色不良、健康不充分、乗物不能、睡眠不足、腸胃病、歩行不自由、常習的風邪、便通の不規則等色々々々身體上缺陷ある者も入園後月日を經過するに隨つて、虛弱兒は健康兒となり、食慾は増進し、血色は良くなり、如何なる乗物にも酔はなくなり、夜分はよく熟眠し、腸胃は健全となり、歩行は自由となり、風邪にかゝらぬ様になり、便通は規則正しくなり、従て體重は増加し見違へる位に健康體となり、保護者より衷心からの感謝の辭を受ける事は如何に本園の環境並に施設が幼児の健康増進上に適當せるかを立證する處なり。

之を要するに本園の特長とする大自然の變化ある廣々とした運動場を持ち、茲に於て充分の日光に浴しながら

新鮮なる空氣を滿喫し

充分なる紫外線を受け

榮養食の供給を受け

思ふ存分の運動をなす

等幼児の健康増進上必要にして缺くべからざる幾多の要素ミ、本園保育の實際主義ミ相待つての結果に外ならざるなり。

五 本園の施設

幼児の健康を増進せしむるためには、體育、衛生、精神の三方面の保育ミ、その幼稚園の施設ミ環境竝に醫師の連絡ミ相待つて各々適切なる手段ミ方法を講ぜざる可からず、本園に於ては以上の主旨に基き室外保育に重點を置き室内使用の如きは、朝禮、晝食雨天其他已むを得ざる場合の外は勉めて之を避け居れり、今本園に於ける健康増進上効果ありミ認めたる施設につき其概要を示せば左の如し。

- (一) 自然を取り込める約千餘坪の運動場
- (イ) 南運動場(平坦部、緩斜面部、急斜面部、小丘、小川、花壇等より成る)
 - (ロ) 東運動場(平坦部より成り、東側の急斜面には各種の大樹木あり、北部には鶯の瀧と小川あり)
 - (ハ) 北運動場(緩斜面には各種の大小樹木、其外小川、プール、放生池の一部より成る)
- (二) 主なる運動具の施設(砂場、棒登り、滑臺、ブランコ、大鼓橋、懸垂、シーソー、障礙通過、プール等)
- (三) 大床上積木遊び
- 平時保育
(室外保育に重點を置く)
- 體育方面

(4) 園藝

(5) 室外掃除(運動場の掃除、草ぬき、水まき、石拾ひ等)

(6) 東山登り毎月の行事とす、其外エイ山登り、郊外遠足、秋季運動會等

(7) 豊富なる天然物利用(自然物採取、昆蟲採取等)

夏期林間保育 (七月下旬より八月中旬迄約三週間)

衛生方面

(1) 榮養供給 (偏食矯正並健康増進の目的)

(2) 齒の検査 (1家庭調査 2醫師の検査 3醫師の治療 4簡易治療施設設計中)

(3) 身體検査 (體重、身長、胸圍の測定、檢温、檢便)

(4) 太陽燈の使用

(1) 朝禮 (大正天皇御大典記念御下賜朝拜殿に於て毎日午前十時卅分、國歌合唱、御眞影奉拜)

(2) 本山參詣 (毎月二回參詣し、管長のお話)

(3) 平安神宮參詣

(4) 精神訓話

精神方面

以上の施設を利用して先づ幼児の脚を強くする事に留意し、之が爲めには思ふ存分に運動し得る廣き運動場を利用し殊に屢々斜阪を上下させる事は、幼児時代に最も多き扁平足矯正上且つ脚部の健全を計る爲め、必要の條件なるを以て園舎に運動場を連絡するに適當なる斜阪を以てせる關係上必ず毎日十数回以上上下せざるべからず、又運動場には適當なる緩傾斜地もあれば、又急斜面もあり、或は自然的の滑臺として應用し得る斜阪其他砂場、小川、プール、滑臺、ブランコなどを使用して殆ん終日時間の立つのも忘れて遊びに熱中するの状態なり、一度園に踏み入るや眞の樂園として毎日々々登園するを唯一の樂みとせる状態なり。

東山登りは毎月の行事とせるが往復約二時間行程にして、甚しき急斜面もあれば平坦地もあり又適當なる斜阪もある、頂上には京都市の大部分を展望し得る絶好の場所ありて幼児に取つては東山登りは唯一の娛樂とせり。

夏期は家庭に於ても幼児の保育に困る時であり、又休暇になれば幼稚園の駄も往々破壊せられる恐れあるのみならず、一方夏期は身體の鍛練をする好季節でもある關係上、全然長き夏期休暇中保育を中絶する事は甚だ遺憾なるを以て、本園では昭和六年夏より園児を中心として小學校兒童參加の許に七月下旬より八月中旬迄約三週間、夏期林間保育を實施し栄養食を供給し來れり、一般保護者は夏期休暇中林間保育の延長を希望せるもの甚だ多く何れ研究の上其希望を充當せんとの企圖を有し居れり。

次に幼児の給食の事であるが、中流以上の子達の栄養障碍は偏食から來る場合が非常に多い、食物一種で完全なるものは殆んどない、偏食すれば自然ある一部の栄養素に不足を生じ従つて障碍を起す事なる、故に副食物はその種類の可成多くして食物に變化あらしむる事が必要なり。好き嫌いの偏食はなか／＼矯正が困難で之には種々の方法もあるが、要するに幼稚園の給食が比較的有効なる事は過去四回の林間保育の際に於ける給食の實績が證明せる處なり、依て本園では去十月一日より栄養食を與ふるに共に偏食を矯正するに極めて都合よき方法なる事を信じ萬難を排して一週六日間の給食を開始せる次第なり。

次に大阪市衛生試験所にて大阪市に於ける幼稚園の幼児のお辨當につき調査せられた結果を標準栄養價に比較して、カロリーも蛋白質も充分あるもの、熱量と蛋白質の何れか不足せる者、カロリー、蛋白質共に不足して最も悪いものとの三種に區分してその割合を出して見るに左の如き結果となれり。(参考の爲め掲ぐる事にす)。

幼稚園御辨當の栄養量調査成績表

| 成績 | 調査幼稚園 | | | |
|----|-------|----------|-------------|------------------|
| | 調査幼兒數 | 完全なる者(%) | カロリー不足の者(%) | 蛋白質不足の者(%) |
| A | 一〇一 | 四八・五 | 五・九 | 三二・七 |
| | | | | カロリー蛋白質共に不足の者(%) |
| | | | | 一一・九 |

| 平均 | B | C | D | E | F | G | H |
|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 一一二・二 | 九九 | 一三三 | 一四九 | 二五三 | 一五〇 | 一一一 | 二六六 |
| 四五・九 | 四八・五 | 三六・八 | 二八・八 | 三四・八 | 四〇・〇 | 七〇・三 | 五九・四 |
| 一〇・〇 | 三〇 | 一九・五 | 一一・四 | 一九・四 | 一二・七 | 三・六 | 四・五 |
| 二三・八 | 三六・四 | 一六・六 | 二六・二 | 一五・〇 | 二五・四 | 一四・四 | 二三・三 |
| 二〇・四 | 一一・一 | 二七・一 | 三三・六 | 三〇・八 | 二二・〇 | 一一・七 | 一一・八 |

六 虚弱兒の取扱

普通幼稚園に於ける組の編成は大體一年保育、二年保育、三年保育による年齢別を採用せり、然るに都市幼兒の一般狀況を見るに虚弱兒の数は相當多數に達せる状態なり。元來人間一生の健康の基本的素質は幼兒期に於て養成せざるべからず、従て幼兒期に於ては虚弱兒は勿論、一般幼兒もより以上に健康増進を必要とする時期なる故、虚弱兒の多き都市幼稚園に於て同一の組に於て之を全然同様に見做し同一施設の許に取扱ひを進める如きは將來大いに改善を要すべき事項とす。

依て都市の幼稚園に於ては必要に應じ、健康幼兒標準に基き虚弱兒組と普通兒組に區別し、虚弱兒組にあつては大自然の中に自由遊びを奨勵し、休憩の場合には靜養室を使用し、園醫は時々診察を行ひ萬遺憾なきを期する迄に實際的活動を希望して止まざるなり。

虚弱兒を決定するに當りても家庭と密接なる連絡を取り、幼兒の入園前に於ける既往症（麻疹、百日咳、水痘、急性耳下腺

炎、デフテリ、猩紅熱等)、同一疾患に屢々罹り易い傾向の有無(急性氣管枝肺炎、急性扁桃腺炎、急性中毒性腸炎等)、異嗜症及偏食等(壁、土、炭、けし炭、マッチ、生米等を好んで食する)、特異體質(敏性體質)(玉子、蟹、海老、鯖等を食して濕疹の出る者、牛乳を飲んで下痢するもの)等の身體上に關する狀況を調査し、幼兒取扱上の參考に資する事が必要なり。

都市の普通家屋は其構造上通風、採光等實に不衛生的に構成せられ、發育旺盛なる幼兒には甚だ不適當なるを以て家庭との連絡を密にし進んで之が改善方法にまで連絡を進める勇氣が必要である、要するに幼稚園のみではなかく健康の増進並に體質の改善を完成せしむる事は難事と云はざるべからず。

幼稚園は小學校、中學校等に比し一層醫師と密接なる關係を有するの必要あるは論を俟たず、常に醫師の指導の許に幼兒の健康狀態の程度に應じ運動の程度並に保育上に於ても適當なる取捨を加へ遺憾なきを期せざるべからず、從來の如き形式的の身體検査を行ふが如き習慣は幼稚園にあつては斷じて中止せざるべからず、尙一步進んで保姆の一人位は看護學を修得し、看護婦以上の幼兒に對する看護法を會得せしめ置くの必要あり、其實現が出来る迄は普通看護婦を附屬せしめるの必要を痛感する次第なり。

七 應急改善策

都市の幼兒を適當なる郊外に引率して保育する事の健康増進上有效なる事は幾多事實の證明する處なるが、さて之を實施するには幼稚園によつては經濟上之を許さざる關係あるを以て、都市の既設幼稚園にして研究改善の必要あるものは應急策として次の如き事項につき之を實施するの舉に出づるを必要とす。

- 一、園舎内外を出來得る限り有效に應用する事が必要なり、神戸幼稚園の如きは最も有效に利用されある一例ならんか
- 二、幼兒の發育に適應する運動具を設備し以て幼兒の興味を喚起しつゝ、基本筋肉の發達を助長せしむる如き施設の必

- 三、保育室、遊戯室等は換氣ミ採光に遺憾なからしむる如く改造する事
- 四、塵埃多き處は可成二階以上の屋上なごを利用し自由に遊び得る様にする事
- 五、洗面所、湯飲場、便所等の設備を遺憾ながらしむる事
- 六、ラヂオ體操、室外運動を奨勵し、勉めて日光に露し室内保育を極力減少する事
- 七、經費の許す限り、なるべく郊外進出を奨勵する事

八 結 論

都市幼稚園の多くは以上述べたる如き環境ミ施設にあるを以て、如何に優秀なる保姆を採用しても幼児の健康を増進せしむる事は頗る難事ミ云はざるべからず、この難事を打解するためには從來の惡習慣たる園長兼務制を全廢するミ共に、室内保育竝に小學校準備保育の弊を一掃し、一方交通機關を利用し郊外出進を企圖するにあり、之が實施は經濟上許さざる處もあるを以て幼児の無賃乗車の制度を設くる事を市當局に交渉し之が實現を期するにあり。

一方都市に於ける虛弱兒童は日々増加の傾向あるに鑑み、幼稚園時代に之を減少せしむるの手段を根本的に講ずる事が目下の急務なり、小學校時代の虛弱兒童を收容して健康増進を企圖する如きは、最早や時機遅れの感なき能はず、依て彼の大阪市經營の六甲郊外學園（六甲若樂園の附近にあつて、大阪市小學校在籍兒童にして三年以上の虛弱兒童を約三ヶ月を收容期間ミして定員約八十名を收容し、全員寄宿生活をなし設備萬端遺憾なし、其效果顯著なり）の如き施設を幼児にまで擴張せしむる事は幼児教育の任に従事せる幼稚園關係者の今後大に努力して之が實現を期し以て、健康兒を小學校に送る事が重要な義務の一つなる事を忘るべからず。

青木誠四郎先生に

特殊幼児の取扱法をきく會

— 十月四日附於幼稚園雅 —

司會者

「本日は青木先生には御忙しい中を私共の爲にお出で下さりまして、誠に有難うございます。又皆様も雨の中を大勢御出席下さりましてありがとうございます。今日は私共が日常困つて居ります子供の事に就きまして、青木先生に光を與へて頂きます誠に有益な會でございます事存じます。問題を前以てお送り下さいました方は極少数で御座いますが、實際問題でございますから何誰も澤山に問題をお持ちの事存じます。どうぞ御遠慮なくごしお出し下さいませに願ひ致します。では先に問題を御送り下さいました方からお願ひ致します。Aさんどうぞ、質問の御説明をお願ひ致します。」

A「當年七歳、來年小學校に入學の豫定の男の園児でございますが、身體が大きく大體に於て健康のように見受けられます。従順であつたり、不従順であつたりむらで反抗心強く自分の氣に入らぬ事（例へばわるい事をしてこめられた場合など）だごあきらかに反抗し打つたりつねつたりし、強情で我儘でございます。お話なき氣に入つた場合には他の子供より一層の熱心さですが氣ののらぬ場合は其の反對でございます。其の爲め他の子供を餘り良く交際が出来ませんが、智識がある爲め他の子供より尊敬さうひまですか一段高く見られてゐます。」

青木「判断はさうですか」

A「相當しつかりしてゐると思ひます」

青木「さういふ家庭ですか」

A「父は會社員でお母さんはあまり叱らない方で理窟を言つてきかせる人です」

青木「いわゆるインテリお母さんですね」

A「ハア、母の會の幹事をしてゐられる相で兄弟は皆この子供と同じ様な傾向です。」

青木「數の觀念はさうですか」

A「數や字はよく出來ます」

青木「智能は高いですね。お母さんは叱らないのですね」

A「ハア、口で叱つて折檻するさういふ様な事はなさらなな様です」

青木「兄弟はさうですか」

A「兄弟は三人で男ばかりでその子供は一番下です。三人は皆同じやうで一番上の兄は成蹊に、次のは〇〇小學校一年に通つてゐますがその子は學校の先生は一年に行つてもよい程智能が高いさうおつしやつてゐらつしやる相です」

青木「困つたことを言ふ先生ですね、お父さんはお子さんに干渉しますか」

A「お父さんは關係なしの様です」

青木「亂暴はさの程度にしますか、轉つて暴れたりしますか」

A「いゝえ」

青木「ねち／＼に反抗しますか」

A 「理窟を言ひます。その子供の程度より低い事を言ひます。忽ち理窟でやりこめられます」

青木「健康はいゝですね」

A 「こゝの所暫く風邪を引いて休んでゐますが特に丈夫でも、又弱くもありません」。

青木「天候の影響はありませんか。つまり、雨の日暑い日御機嫌がわるいといふ様なことは」

A 「サア……」

青木「これは随分關係のあるものですから大事なことです」

A 「一日の中でも色々變るのですけれど……」

青木「一日の中で一番いつが悪いですか、朝ですか、晝頃ですか」。

A 「さあ、こちらの出様で随分ちがひます」

青木「それはこちらの出様で随分ちがつて來ます。ピシャッとおさへれば向ふが反抗してくるのですか」

A 「そういう時もあります、發作的に來て、何もしない人を掻き廻したりします。それはお友達の居ないといふこともあるかも知れませんが、兄さんの方は尙ひきかつたさうで、お祖母さんがその兄さんをあまり可愛がらなかつたのでひびくなつたさうです。或日お寺に連れて行つて、本堂で靜に坐らせて置きましたら、直つたさうですが、この子供はその兄さん程ひびくはないといふ母親の話でございました」。

青木「聞かせれば解りますか」

A 「解るのかも知れませんが、その時は反抗してミても恐い顔でにらみます」

青木「先づこゝういふ子供のこゝで一番問題になるのは素質の事ですね。素質は智能の方面と情意の方面とあります。こゝ

の子供は智能が高い、きつこ智能テストをしたらかういふ子供はいゝでせう。そして情の方面から言ふと感情がつよくて其れが内向して來るのです。この子供はあまり華やかでないで陰氣でせう」

A 「はあ」

青木「感情が強くて内向的で頭のよい子は私の強いものです。自分で自分を大事にするこいふ事が強いので人に氣に入らないこをされたり言はれたりするこ、自分が承知をしない。それが陽氣な子供だこ癩癩を起して大聲で泣いてあこは忘れるこ云ふ風なのです、内向的の子供ははつきりこれを外に出さないでねち／＼して脇に出して來ます。大人でも陰險な人こ言はれるのにさういふのがありますね。おこられた時その時はしないで、後で陰に行つて當るこいふ様な事です。兎角カラッこしないのですね。そこへ親の養育の仕方が理窟で聞かせるのですから、子供も自然理窟で向ふ様になつたのでせう。子供にも判断力があります。はつきり理窟が解るのではなく薄々氣持の上で解る。殊に頭がよいので、この傾は助長されて反抗心が出て來てゐるのです。

こういふ子供を如何に取扱ふかこいふこは、まづその素質があるのですから、その素質が他の關係で掩れるまでは相當大きくなる迄續きませうね。こういふ子供は青年期に色々問題を起し易い入こいつてよいでせう。幼稚園に來てから直さうこいふのでは少し遅過ぎで直しくいのです。この位になるこ理窟を知つてまして、理窟で攻めて來ますからね。一歳から三歳位迄の間なら、癩癩を起した時におさへれば自然に習慣的に之を直す事が出來ます。こういふ子供を主我的な子供こいひますが、自分の考は大變よくて人のは何でも悪いこ考へるのですね。こういふ子供は間接の方法で、例へばお話を聞かせるにしても、そのお話の中で其の子に似た子供が後で大變に困つた様な話、又は此の子供こ反對の性質の子供が大變善い仕合せになつたこいふ様な事を、靜に聞かせるのですね。子供の反省は大人こは違ひますが、餘程調子をゆる

くすれば効果があります。こうしてじり／＼矯正してゆく、自分の理智の上から識らず識らずの中に考へるのですね。子供が子供としての理想のやうなものに向つて進んで行くこいふのが大事ですね。叱つては駄目です。叱るこま／＼動かなくなる。反省の機會を與へればよいのです。おこなく自分のした事が悪いと言ふ事を反省させる様にすれば自然に直つて來ます。頭の悪い子供にはこれが出來ませんが、頭がよければよほどまでは直つてゆきます。こうした子供が此のまゝ續いて行くこ大きくなつてから困りませう」。

A 「友達を掻き廻す時はどうしたらよろしいでせう」

青木「一寸いらつしやい、言つて連れて來るより仕方がないでせう」

A 「それが困るのです、そうして連れて來るここても怒ります」

青木「その時におさへてしまはなければいけません。それをおさへてこちらに連れて來てから靜に言つて聞かせるのです。其の時にこちらが怒られて負けてしまへばいつでも其の手を使はれてしまひます。これでお解りですね」。

司「次にませた子供の取扱ひについての御質問Bさん問題の御説明を願ひます」。

B 「今年一年保育に這入りました男の子供で、大きいですからすべてに發育して居りまして口の聞き方等少しも子供らしい所がないので御座います。近所を極めて見ましたら、自分と同じ年頃の子供は遊ばず、いつも小學校一年二年の子供と遊んで居りますが、その子供達があま環境のよくない子供達で、人の困るここ、變化のある事を好むと言つた様なたちなのでございます。其の爲に其の子供も幼稚園にまゐりましてから、人の困る様な事をして喜んで居たりしてこても子供らしくないあくさい所がある様に見受けられるのでございます。リレーの時にしましても短い距離ですこ自分が歸つて來てから次にバトンを渡す人に渡さずにドン／＼行つてしまふのです。「何故そうするの」を尋ねますと、こんな短い

處なんか走つたつて面白くないからださ申します。小さい子供相手ですぞ致しますが大きい足の速さうな人達を選んで致します時はきつみ足が痛いさか何さか言つて致しません」。

青木「家庭はごうですか」

B 「お母さんは小學校の先生で、お父さんは軍人です。お家では十八九の女中さんが一人で其の子供を預かつて居ります。弟が一人あります。祖父母が近所に居て其の子供が幼稚園には入りました頃はよくお迎へに見えて、其のまゝお祖母さんの家で夕方まで遊んで居た様ですが、此の頃は一寸もお祖母さんの家へ行きません、お祖母さんの所へなんか行つたつて面白くないと言ひます。家へ歸つて近所の子供達と遊び度いのです。一番よく遊んで居る子供さいふのが、やはり小學校の先生のお子様でお父さんが三つの時に亡くなられたので淋しからうと言つて夏休み中この子供のお母さんが家に連れて來て遊ばせたのだ相です」。

青木「お母さんの性質はごうですか」

B 「よく存じませんが快活の様です」

青木「勝氣ではないでせうか」

B 「いくらかさうした氣味もあります。お母さんも師範の時に大變成績がよかつた相ですから」。

青木「理窟を言ふ方ですか」

B 「度々お話し致しましたがさう理窟はおつしやいせん」

又此の頃は目立つて嘘を申します、一人人のした事を覺えてゐて、私達が何か其の子供のした事を吐りますぞ、誰さんもしたく、三人を指して申します」。

青木「頭はよいですか」

B 「たいしてよくないと思ひます。常識的にはませて居ますけれ共」

青木「それはそうでせう、數の觀念は」

B 「まだあまり深くは檢べませんが數の事や智的の事を聞かれるのは、あまり喜ばないのです。この頃になります。他の來年學齡の子供は字や數の事を口にするものですが、此の子供はあまり口に致しません。晝を描いたり本を讀んだりする事も好みません。お話を聞くのは好きですが」。

青木「體はいゝのですね」

B 「體はこてもよく發育して居ります。一寸見ても一二年位に見えます」

青木「そうした傾向は何時頃から現れて來ましたか、始めからですか」。

B 「始めはそれ程あくどくはなかつた様ですがそわ／＼して一寸も落付きがありませんでした。そして一學期の終頃大變になれて來ましたので喜んで居りましたら、一學期からは又がらつゝ變つてこんな様子になつて來ました」。

青木「さういふのを我々は neglected child といひます。つまり子供をほつたらかして女中やお祖父さんお祖母さんに育てさせて置く極端に云へば街路に放つておくさういふ様な育て方ですね、女中はいくらい女中でも責任を以て育て、行くさ言ふわけには行きません。唯其日／＼を無事に過ごして行けばよいのですから。お祖父さんお祖母さんにした所が其の條に對しては、理想を以て育て、行くさ言ふわけには行かないと思ひます。まして街の中に放つておかれる子供はさうしても悪い友達や成人の悪い影響を受け勝になるのです。細民の子供なぎにはさういふませて始末の悪いのが却々あります。さういふ子供のも一つの原因としては、さつきの子供と同じやうに素質は強いのですがそれが内向的でなく外向

的で、自分を現し、人に見せ様とする性質があるのです。そこから所謂餓鬼大將にならうとするのです。自我が同じ強くても内向的な子は自己表現欲が少ないが、外向的な子はこんな傾向がつよい。大人でもよく法螺を言ふ人がありますね、あれはやはりこの、人に見せ様とする所から来たものです。この放たらかされた云ふこと、子供の素質にさう云ふものがある云ふ二つの原因、これがこの子供の歪んで來てゐるここの大きい原因でせう。尙この子供について考へられるのは、自我感情が勝つてゐる云ふことです。自我の觀念は四五歳の所で一段落つくものですが、この頃になるこ非常に言ふことを聞かなくなります。この時期に取扱を誤るこ、この自我をおさへるこいふ経験をせずに来てしまふので大變自我の強い子になつてしまふのです。この子にしても、外向的で自我が強いから人の目に立つ様な事をしたり、又人を困らせて得々さするこいふ氣持が出て來るのです。お話の、力の強い子とする時にはしないこいふのは其の時には自分を現さないからやらないのです。つまり悪い友達と女中の間に委ねられて來て來ますから、女中は御機嫌を取つて無事に過さうとするし、友達はおおだて、遊ぶこいふ風で、自我の強い子供が少しも嬌められる事なしに、粗野な取扱ひの中に育つて來たのです。然もお母さんは夜だけしか居ないのですから母の愛を十分に受けるこいふわけにもゆかないのです。これも大きい原因と思はれます。智能の高い子は理窟で自我を通さうしますが、この子供は亂暴で通さういふ様になります。夏休み後特にそういふ向きになつたこいふのはやはりその友達の影響でせうね。其の友達が純な子供であつたらよかつたのでせうが、ませてゐた爲に其の子の御機嫌を取り乍ら遊んでゐたからでせう。

そこでまづ自我が強くて自己表現欲が出るのはまあ仕方がないとして其れが粗野でなければ満足するのですね。そして其のおだてながら本能的な遊びを教へる友達を取らなければなりません。又一方では正しく訓練する者が無ければ駄目です。お母さんに出來なければ幼稚園の方でしつかり訓練しなければ駄目です。この様な子供は恐らく其の爲にむくくこ

ふくれて蔭から刺を出す様な事は無いでせう。目に見えて悪い事をした時に、そして自分でもテレてる様な時、ピシャンとおさへつけてしまふのです。夜は子供は活動しないものですから或はお母さんの居る時にはあんまり悪い事をしないのかも知れませんが、本能的自我がはねをのばしてゐて道徳的自我が發達してゐないので、この道徳の自我の發達について考へなくてはならぬのです。

生活的には、其のあまり好きでない仕事をも、少し程度を下げてやさしくしたものをさせて其の仕事の中に自己を表現させる様にするのです。そして少しよく出来た場合には、よく出来たまほめてやつて、人をかき廻して自己表現を満足させてゐたのを轉じさせて仕事の中でそれを満足させてやるのです。自己表現の場所が出来ればその傾向は大分なくなる筈です。

B 「子供に依りまして、悪さを致しましても咎めてよい子、悪い子ありますので或時は叱つてもほかの時は叱らない様な事も自然起るのですが、その子供がそれを見てゐまして「誰さんがしても叱られないのに自分が叱られた」と申しますのですが」

青木「一般としては叱らなければいけませんね。然しこの子をおさへるのは特に問題を起した時に叱らなければいけません。其の特別の時期をつかまへるのが、こちらのこつですね」。

B 「こゝにいふ子供からほかの子供が受ける影響は餘程大きいものでせうか」

青木「外の子供の指導によりますね、あゝいふ事は悪いこゝいふ事を、外の子供に行爲の批判の出来る様に導く事が必要です。大人の批判とは異ひますが、あゝ言ふ事をする人はいやな人だ、意識する様に導いて行くより外ないでせう。

それでも尙ほかの子供に大きな影響がある事が判つた時はやめて貰ふより仕方がないでせう。人数が多くて其の子供にか

まつてゐられない、又は性質があまりに強すぎて仕方がない時は傳染病と同じですから隔離するより方法がないでせう。
これでよろこびますか」

B 「有りがたうございました」

司 「では次にCさん説明をお願ひ致します」。

C 「七歳の女兒で智能は普通ですが家では強情さいはれて居る子供が幼稚園では言葉や動作がグズグズしてゐる間に合はないのです、叱つてよいものかどうか迷つて居ります」。

青木「智能の普通さいふ事はさう言ふ所から判断しますか、數の觀念などは」

C 「相當にあります」

青木「數の比較は出来ますか」

C 「はあ、この間キャラメルを八つ持つて來てこれをお父さんとお母さんに分けてお覽なさいと申しましたら、ちやんち四つづゝに分けました」。

青木「お家ではごんなに取扱つて居られますか」

C 「お母さんは強情だ〜ミ一番叱る相です」。

青木「叱るからいけないのですね」。

C 「元氣が無くて體も弱くてヒヨロ／＼して居りますがする事には非常に興味があつて、やり出すと出来るまでなかなか止めないのです。お辨當だと言つても出来るまでは強情に頑張つて居ます」。

青木「それは強情ではないのです。いゝ所があるのですね」。

それはまづ體を氣をつけて、あまり叱らない事ですね。よく叱つても強情だといふ事を言ひますが、叱るから強情になるのですね。そして子供のよい所を見付けて、それを伸してやるのです。前に申しました自我の出て来る四歳五歳の時にあまり言ふ事を聞かないので親が驚いてしまつて叱るので、ますく強情になつてしまふ事はよくあります。つまり強情養成ですね。自我の意識の強い子は、正面から突くこ駄目ですから、脇から引き出す様にする事です。子供の好きな上手な事からさせて、褒めてはやらせ、褒めてはやらせる様にするのです。それからさあやいなさいく言ふ時には、こちらがぐすくしてゐては駄目です、まづこちらからさつさささせる様にする事が大事ですね、子供が自分でぐすくやつてゐると思はれますけれ共、そうぢやないですね、こつ言ふ子供はぐすくせざるを得ないので、體がはつきりして來れば癒るでせう。これでお判りですね」

司 「次に第一問の方をお願い致します」

C 「早生れの六つの男兒ですが智能もやゝ劣り時々亂暴を致します。赤ちやんの様で何をさせても一番拙く、お友達とも遊ばず一人で楽しく遊んでゐますが」

青木 「それは頭の悪い子ではないでせうか、だまするにまだ社交性が出てこないのですね、亂暴するのは智能が低くて自分をおさへる事が出来ないからするのではないでせうか。さういふ家庭ですか」

C 「普通でお父さんもお母さんも、相當に教養がある様です」

青木 「泣いたりしますか、」

C 「イ、エ、一寸も泣きません、皆が折角お仕事をして居る時にいきなり後から來て、打つたり致します」

青木 「元來低能の子供に二つの種類があります、ビネーが言つてますが均衡性と不均衡性の二つです、前の方は、ぼん

やりして居て、始終にこくして居て、何でも人の言ふ事をハイハイと聞く様な低能で、後の方は其の反對に、言ふ事を聞かない、にこくして居ない、きかん氣の所があるのがそれです、不均衡性の方が種々な問題を起し易いのです。よく普通の學校で起る事件ですが、學校であの子が出来ない、皆に言はれたので亂暴をして友達を傷けたと言ふ様な事になるのです。衝動的性格を持つて居るのですね。

C 「お母さんは學校をおくらせ様かと言つていらつしやいますが、如何でせう、」

青木「それはおくらせた方がよいと思ひますね、先づ生活の習慣をよくつけて、衝動的の事をおさへるより仕方がありませんね、」

司 「次はDさんお願ひ致します、」

D 「七つになります男兒、どちらか三申しますと理窟つばい所が御座います。お家はお母さんとお姉さん二人弟さんが一人御座います。その子が三つの時にお父さんが亡くなられたので御座いますが、お母さんはお子さんをいぢけさせたくないと思つて、お父さんは外國にいつていらつしやるのだと言ひ聞かせておありになります。お姉さん二人は本當の事を知つていらつしやるのですが本人には何時本當の事を知らしたらよろしいでせうか。もしこのまゝ中學時代になつてから知つて失望からぐれ出す様な事があつては困りますが、この御相談を受けましたので一寸お伺ひ致したう御座います。」

青木「親の死をかくす云ふ事はよくやりますね、何時話したにしても、親がそれ迄事實を隠して居たまいふ事はよくないと思ひます。子供に對して、不信實を増すものです。小さい時に話しても、其の爲にいぢける云ふ事はない物です。淋しがる事はありませんが、又それは何かの方法で補へると思ひます。」

なるべく一日も早く事實をお話しになつた方がよいですね、子供が父親の懐しさを意識しない中に、青年期にならない

中に、子供によく今まで話さなかつた母親の氣持を納得させて後、父の死んだ事を話したらよいと思ひます。姉さん二人の事を考へて見ても、姉さん二人が弟に對して、いつも一つの嘘を言つて居る言ふ事になつて、これ又悪い影響があるものと思ひます。

D 「今、其の子供がお友達に君のお父さん死んだらと言はれて、疑問を起しかけて居る所で御座います」。

青木「誰かに聞いたのですね」

D 「その子が理窟ばいので理窟を言ふ様になつたら尙困るでせうが、今話して病氣にでもなる事があつては言つていらつしやいますが、」

青木「病氣になるなんて事はありませんでせう」。

お母さんが今までの事をよく話して、胸に落ち着けてやるのですね、今は年が小さいから直ぐには影響はありませんね、兎に角話すのはなるべく早い方がいゝです」。

D 「有りがたう御座いました」。

E 「私も一つお願ひ致します。六つになります男の子供、さ來年學校の子供で御座います。こちらで致しましたテストの結果は中以上で御座います。入園致しましてから一學期の間はいつも一人で遊んで居ました。お室に入る時でもは入らずに、遊戯も、お畫かきや塗畫等も一寸もしないで、砂場や山の上で、かなり長い時間一ヶ所で遊んで居ります。食事もお歸りの時だけ這入つて來ます。大分そのまゝで置いておいたので御座いますが、先學期の末頃或日、女中が自分を迎へる態度が悪いと言つて大變におこりました。その女中が少し後の方に居たので皆の女中の様にもつゝ前へ出て來なければいけない、又、靴も黒いのはいけない赤いのを持つて來いと言つてあつたのにさおこつただ相で御座います。私も其

の時はこの子供が御洒落なので丁度茶の洋服の時でしたから茶の靴がはきたいのだな、と思つて居りました。所がこの學期から女中をひきくいちめる事が度々御座いますのです。髪を引張つたり、つめつたり、するので御座います。或朝も女中が逃げて來ましたので、子供をおさへて置いて女中を歸し、後でよく其の子にわけを聞きますと、唯女中が悪いノ、と言つて居ます。何でも毎朝本校の門から幼稚園迄の間で三十分位道草をするのださうですが、その時早く行きませうと言つたのが氣に入らなかつたのだ相です。塗畫等も畫の外をチョン／＼するだけですが、美醜の觀念は強く、女中も奇麗なのさでなければいやだま申します。あまり何も致しませんので、遊戯の時今度はきつ／＼するさいふ約束を致しましたら、其の時は遊戯をしました自分の嫌なものはいしないで歩いて居ました。それから又二三日してさうしてもしないま申しますので、しない人は歸りなさいま申したら、やつ／＼やりました。さういふ工合に何でも理窟を言つて聞かせなければ聞かないので、今では理窟で攻めて居ますがさういふものかしらと思つて居ます。

この間も鼻尿をなめて居ましたのでおやめなさいま申しますと、しよつぱくておしいま言ひます、それぢや先生が皆の鼻尿を貰つてあげるからお食べなさいま申しましたら、人のなんかいやだま言ひます。なぜなめてはいけなかいま聞きますから、鼻尿は鼻の中のごみが固つたので汚いのだから食べてはいけないま申しましたら、やめました」

青木「家庭はさふいふ所ですか」

父は三井物産に出て居りまして、母は府立高女出、おばあさんは女高師出で、家にはお父さんの兄弟が二三人居て、大人の中の子供ですからね、今日も塗畫の時畫の外をチョン／＼塗つて居るので他の子供が何か申しましたら子供はこうするものだ頑張つて居ました」。

青木「頭は悪くないでせうね」。

E 「悪くないと思ひます」。

青木「つまり一人子で、女中が居、おばあさん、叔父叔母が居るのですから、そうした方面の影響が随分ありますね、女中をひきく使ふ言ふ様なのはきつこ成人がそういう風に使つて見せるのではないかと思ひますがね」。

E 「そんなにひきくされても女中は家へ言はないらしく、お母さんが來られての話しに、毎日大人しくいらつしやつたいらつしやつた言ふので一寸も御存じなかつた相です」。

青木「それがいけないですね、女中はそれを申上げれば自分の責任上濟まない様な氣がして言はないのですね。自我が強くてそのまゝ大きくなり、社會性がないので、幼稚園に來ても自分勝手の事をやつて居るのです。そういう子は、家でチャホヤされて、大事にされて大きくなつたのですから、先生に對しても、人に對しても何とも思はないのですね。家庭で子供の躰を嚴重にする事が先づ一番必要です、大もこは家庭の問題です」。

E 「お母さんのお里に尋ゆくこ大變な優待の仕方らしいです。方々に連れて行つたりして、
青木「そういうのがいけないですね」。

E 「私も此の頃は少し強く出て、目に涙をにじませて叱るこ聞きますこても可愛いこ子供なので我慢して叱るのです
けれ共、

青木「よく可愛いこ子、つまりみめのよい子に性格の悪い子があるのはそれですね、可愛いこのでつひ皆から可愛がられて、我を通して育つからいけないのです」。

青木「家庭に其の子の本當の姿を知らして家庭と一緒に訓練するのですね」。

E 「有りがたう御座いました」

F 「私も一つお願ひ致します。私の方の七つになります女の子で御座いますが、先程のCさんの御尋ねになりましたお子さんご反對に、體はごてもいゝので御座いますが、ぐずぐずして居ります。口も一寸もきゝません。仕事も自分からは決して致しませんが、させれば普通以上に出来るので御座います」。

青木「頭はいゝですか」

F 「普通以上で御座いますご思ひます、數の觀念も相當にありますし、字も假名は全部讀み書き出來ます」。

青木「ごんな家庭ですか」

F 「お家は商人で兄が一人妹が一人で御座います」。

青木「兩親は、ごんな人ですか」。

F 「お父さんはごても大人し相な方で如何にもお母さんに數かれて居る様です、お母さんはお子さんをごても吐るらしく、子供もお母さんの方がごわいご言つて居ります」。

青木「兄さんも妹等はごんなですか」。

F 「兄さんも普通の男の子供に比べますご大人しい方ですがでもよくお話は致します」。

青木「まづ普通ですね」。

F 「ハア、妹さんはやつぱりだまつて居て、時々お迎に見えますが、むつつみして立つて居ます」。

青木「體はいゝのですね、肥つてますね」。

F 「ハアごてもよく肥つて居て、概評も、榮養も甲で御座います」。

青木「ごの程度にぐずぐずして居ますか」。

F 「皆がお遊戯室にならんでしまった頃、やつこのそくにお室に這入つて行きますし、運動場でもいつも一人でボツンと立つて居ます」。

青木「こうした事は其の両親に會つて見ますと一番よく分るのでせうが、相當遺傳的なものがありはしまいかと思はれます。併しそれにしても、その氣持をできるだけひきたてるやうに、少し出來たこゝがあればよく賞めて、努めて自發的な性質を養ふやうにしなければなりません。従つて、成人が怒つて叱つたりなごしてはいけません。それは尙この性質を強めるこゝになつてしまふでせう。

子供の中で兎に角問題になります子供は、自我の少ない子供か、自我の強い子供かですが問題を起こすのは多く、自我の強い子です。自我が強いがそれが、内向的であるか、外向的であるかによつて、表はれて來かたが違ふのでありますが、多くは開けつばなしでおさへられずに伸びて來たので、曲つて來るこゝいふのではなからうかと思ひます。長く子供を考へて取扱つて來ますと、段々一寸其の色々の事を聞いただけで出る様になつて來ますね子供の問題が主にこゝに原因があつて起つて來たかが分ると思ひます」。

G 「私も一つお願ひ致します。六つになります男の子で大變羞恥心が強いので御座いますが、それさへなければ申分の無い子供なので御座いますが、唯今なほさなければならぬ時期で御座いませうか、又今少し經ちましたらなほるもので御座いませうか」。

青木「今なほす時ですね」

G 「外の事が優れて居りますので、今に分るかしらと思ふ事もあるので御座いますが」。

青木「どの程度にひびいのですか」

G 「例へば返事をする様な場合でも、返事をするまでには體をひねつたり何かして大變なので御座います」。

青木「正面を突いてゆくといふ事はいけないでせう。返事を無理にさせ様とするこ、ます／＼其の羞恥心にふれる様なものですから、外の方から先生との間に慣れを作つて行つて、皆で返事をする様な場合に返事をしなくても、しななければなくてもよいといふ様にしたらよくはないでせうか、直接の時には、唯返事が出来る様になつたか如何かをテストする程度に止めて置いて、外の時で慣れさせて行くのがよろしいでせう、小學校に行つてからは先生に慣れると言ふ機會が作られる事がむづかしいので、幼稚園で、なほさなければならぬでせうね」。

G 「有りがたう御座います」

B 「先程の子供と違つた子供で御座いますが、人が怪我をした時等早くだましてあげ様したり、人の足をふんだ時でも、大變にあやまつて後までも悪かつた／＼云つて居ります。私達の氣持もとても解つて忙しい時等には、僕がこれしてあげるから先生向ふをしなさいといつて手傳ふといつた工合です。お父さんが三つの時になくなつたので、自分が病氣をするとお母さんがとても心配するといつた様なしんみりとした話を致します。何かする時は自分がリーダーになつて致します。保育の上では少しも困らないので御座いますが、このまゝ進んで行つてさうなるもので御座いますか、心配になりますので御座いますか」

青木「その子はお母さんきりで末の子ですか」。

B 「兄さんが後をこつて居て、店員が大勢で大人くさい事ばかり言つて居ります」。

青木「そうした子供の一番大事な事は、原始的な身體的の事を多くする様に、幼稚園でも、家庭でも無邪氣な遊びをさせて、大人の眞似をさせない云ふ事です。性格としては普通です。今の世の中から言へば、そうした子供は勝利です

が、然しある程度までは延びますが大きい延び方をしないですね」。

B 「それは直らないでせうか」。

青木「末子さいふ事さ、大人の多い爲にかなりむづかしいですね。無邪氣に活動的の事をさせればいくらかはなほるでせう」。

H 「時間がおそくなりましたが、御迷惑でなければお願ひ致したいので御座いますが」

青木「ごうぞ」

H 「大きい組の女の兒で御座いますが、御家庭から女らしくしてほしいと云ふ御希望でおあづかりしたので御座います。大きい組で一番意張つて居て、男の子供を澤山手下にして嫂御氣取りで「おいこつちへおいでよ」こいつた調子で引き廻して居ます。ミても理窟を言つて理窟攻めにして私達を負かしてしまひます。お仕事をさせよう申しますさ、』そんなつまらない事をしなくたつていゝだらう』つて申します」。

青木「ごういふ家庭ですか」

H 「お父さんは工場に出て居て、お母さんは近所の使ひ走りをして居る様な家で両親共に教養は少しも無いので御座います。兄さんが一人居ますが奉公に出て居る相で御座います。女らしくしてほしいとおつしやつて幼稚園に來たのですが、女の子供は一寸も遊ばないで男の子がお休みですさ、一日つまんない、くさ申して居りました」。

青木「小學校に行くまでは仕方がないでせうね、幼稚園ではやはり男の子が居ますから小學校に行つて女の子ばかりの組になつたらいゝでせう。やつぱり家庭の影響ですね、言葉にしても、態度にしても、意張るさいふのは家庭で近くの子供と遊んで居たそのまゝが出て居るのでせう。幼稚園に來てなぜ直らないか云ふのは、やはり男の子が居て、それが一

すおごかせば云ふ事を聞くからです。先づ其の言葉や動作で、粗野の事をした時に強くたしなめるのですね、其の時にビシャツミやらなければ駄目です。妙に意張る子供の母親をしらべて見ますと、母親の性格の弱い事がよくあります。母が子供の世話が焼けず、強く出られないでいつも子供に負けて居るのです。ですから、よい機会にその子をおさへる事が必要です。

H 「そんなに粗野ですが、私達が半襟をかへて行きますと、『先生あんなお洒落をして女みたいだね』、こいひましたり、自分の母親が汚い様子をして居るから上つてはいけない等申します、美醜の判断の様に細い感情が無いのでもない様に思はれるので御座います」。

青木「それは唯真似をして居るのでせう、きつと父親が家庭で、母親にそうした事を言つて居るのではないでせうか」。

司 「先生、長い間色々有りがたう御座いました。まだ、質問は澤山御座います事と存じますが、あまりに時間がおそくなりますから、こゝで打ち切る事に致します」。

英國に於ける幼兒保育の發達

白根孝之

イギリスに於て自覺ある幼兒保育の始祖と呼ばるべき人は、彼の有名な社會思想家ロバート・オーエンである。即ち彼は一八一六年幼兒の爲の學校を開いて「二歳から六歳までの子供を收容し、ダンスや唱歌や遊戯をやらせ、出来るだけ戸外ですごし、彼等の好奇心が動く時にのみ學習させ、徒らに教科書で苦しめることを避けた」のであつた。幼兒の訓練に就いてオーエンは次のやうに言つてゐる、「この學校では子供達はお互に親切を盡し、その小さい力で出来る全てを他人の利益の爲に捧げるやうに訓練される。又その教育と訓育には刑罰も刑罰の怖れも伴はない。悪い行ひをした子供は憎しみや叱責の對象としてではなく、憐みの對象として考へられる。全て不必要な強制や制肘はそこでは行はれない」。

〔オーエン自傳〕一八五六

然し乍ら當時小學校に於て行はれてゐた幼兒の保育はまことに幼稚貧弱なものであつて、オーエンのこの卓見も顧る人が殆んどなかつた。永い歴史を空しく過ごして人間の活動が自覺に達した時今更のやうに顧みられ見出されるのが、斯うした天才の運命である。漸く幼兒の保育に幾分の改良が行はれたのは、一八七〇年イギリスに於けるフレーザーベル協會の設立に之に伴ふ「幼稚園」の創設に促されたものであつた。併し幼稚園は當初専ら上流階級の子供の爲のものであつて、「幼兒學校」に預けられた多くの貧乏な親達の子供はこの恩恵に浴するところが殆んど無かつた。こはいへ小學校及びこの

頃から二三の中心的都市に建てられた保育者養成所に於けるフレーベルの思想の影響には、少からぬものがあつた。斯く緩慢な進歩の末一九〇五年になつて文部省は「五歳以下の子供に關する規程」を發し、その序文で次のやうに告げた。「貧しい子供達のために新しい形式の學校——『^{ナイスリースクール}保育學校』を設ける必要がある。そこでは従来の幼兒學校よりも多くの遊戯と睡眠より自由な會話とお話と觀察とが行はれねばならない。五歳以下の子供を學校に預けねばならない兩親は、幼兒學校よりもこの保育學校を選んだがよい」。然し當時の社會は當局の要求に應じて直ちにこの種の學校を造らうとはしなかつた。「幼稚園」と呼ばれるものの上に述べたやうにイギリスでは當初から貴族的なものであつたし、小學校の幼兒學校はあつても、施設經營に於ても保育の方法に於ても、フレーベル主義の微塵だに見出されなかつた。幼兒學校がそこで舊態から脱し、保育方法・施設・保姆養成等に於て面目を一新するには、一九〇五年の規程が動機の大きなものとなつたには相違ないが、尙數年の日子を要したのであつた。

この時代までの保育はフレーベルの自己發展、自發活動の根本思想を全然知らないと言つてもよかつた。彼等はまた人間の本性が「内から外へ」發展するものであり、教育者はこれを「導く」べきであるこの一大原則に盲目であつて、外的強制によつて子供の自然性を矯め直さんとする舊式な態度をこつてゐたのである。人間性に對する信念と幼い者に對する愛情の代りに、彼等は只管抽象的理論と計劃とに頼つてゐた。イギリスのみならず他のヨーロッパ各地と同じく、又他の總ての教育機關と同じく、幼兒の保育も亦比較的最近に至るまでこの誤つた方法論に立脚してゐたのである。總ての子供を年齢に應じて一つの群れに纏め、これに抽象的な理論と外的な便宜から定められた時間割と課程表とを押しなべて強制し、且つ知識を第一と見る偏知主義と機械的心理學説の教へる方法とによつて、宛もトランクに物を詰め込むやうなのが當時の所謂教育であつた。子供の本性から湧き出る力の流れを人爲的な方向に振り向けんところから、最も不自然

な訓練の方法が生れて来る。子供を沈黙に受身に強ひて、これを一定の型にはめんとしたのがこの時代までの所謂舊教育である。

二

然るに二十世紀の始めの十年頃から漸く一般の教育思潮が高まり、教師の素養が進むにつれて、この魂を殺すが如き不自然な教育を打破せんとの氣運が熟して来た。知識は生命、人生の一部分であつて決してそれ自身目的たるものではない。幼児の保育はトランクに物を詰めるやうなものではなく、これに食物を與へるやうなものでなくてはならない。子供の欲しない知識を注入するのではなく、彼等の欲するものを與へ以て彼等を內的に富まし豊かにし且つ強めるものでなくてはならない。これが所謂「新教育」と呼ばれて現在に續いてゐる教育運動の保育方面に於ける反映である。而してイギリスの保育界に於けるこの覺醒を促したものに二つの大きな勢力若しくは原因がある。一つはマリア・モンテッソリーの著作「ナイスリースクールムーブメント」を試みであり、他は「保育學校運動」である。

モンテッソリーの主張は嘗てフレーベルの唱へたところの再強調であり、更にこれを新しい方向に、新しい衣服を著せて發展したものである。幼児が大自然のプランに従つて美しく調和的に發育生長する環境を之に與へよ、教師は案内者たれ、指導者たれ、協力者たれ、子供の従者たれ、——これ等は全々フレーベルがその「幼稚園」なる語に含ませた原意に他ならない。モンテッソリーは更に一步を進めて「科學的技術と洞察」を以て、記録をこり、テストを行ひ、環境・遊具・恩物・成人の行爲の變化が子供の生長に如何なる影響を及ぼすかを實驗しつゝ、二十年の長きに亙る研究の結果、幼児にまつて最も望ましい環境を發見した」のであつた。

元來イギリス人は古い傳統が生んだ誇りを見識を保守性ニに富んだ國民であつて、外來の思想や試みは假令それが一見

如何に優れたものに見えても、直ちに取入れて模倣するまいふこゝは無い。然るにモンテッソーリの刺戟はイギリスの教育界に嘗て見ないほどの力ミ新鮮さをもつて波及して行つた。多くの幼児學校では競つてモンテッソーリ式實驗を始め、必要な機具を購入するために教師が相寄つて身錢を出した程であつた。斯うした試みの結果は勿論その人その場所の條件によつて一様ではないが、イギリスの保育界全體に亘つて勿論惡からう筈はない。幾何かの價値ある結論や原理が生れ、健實にして相當の規模を有つ幼児學校が實現された。然し更に重要なのはかうした一二の具體的實績よりも、イギリスの保育界に爾來今日にまで及んでます／＼盛になりつゝある研究的改革的氣運である。もこより保守守舊の汲理漢は孰れの國にもあるこゝであるが、特に保守性に富むイギリス國民としては、今日でも保育に従事する人に存分の自由を與へ、教室や遊戯室を「忙しい工作場」化するこゝを嫌ひ、昔乍らの「お手々を膝に」式の訓練を尊ぶ視學や當局者は少くない。又何等の生彩のない時代後れの教師もある。然しその數は漸次減少しつゝあるこゝは言ふこゝが出来よう。

保育法の改革に與つて力あつた第二の原因は「保育學校運動」の發展である。この運動は一九一八年文部大臣フィッシャーの手で議會を通過された教育改革令、又の名を「兒童の憲章」と呼ばれる條例によつて引き起こされたものである。一八一八年と言へば世界大戰の最後の年である。大戰がイギリスのみならずヨーロッパ諸國の教育界に與へた影響には未だ見ざる甚大なものがあつたのであるが、イギリスに於ては既に大戰の開始と共に之に刺戟されて教育改革の氣運が動いたのであつた。蓋し開戦に方つてイギリスが戰場に送るべく募集した壯丁は、必ずしも彼等の意を強ふするに足りるものなかつたし、更に遠く平和克復後の國情を慮る達識の士に亘つては、イギリスの將來に對する深い杞懼があつた。一九一五年五月ロンドン・タイムス紙の教育附録は「いかにせば戦後の國運に處する國民の兒童を教育するに足りる學校を作るこゝが出来るか」の社説を掲げ「この戰爭の終つた後の世界に確乎たる信念をもひて進むには、我々は先づ教育され訓練され

た國民ではなくてはならない」言ひ、同月時の文相ビースは大戦の勝利を豫告した後、「戦勝の布告は我々を満足な平和に呼び戻すものではなく、勝利の持續に必要な努力のために我々を招集するであらう」ことを覺悟せねばならない」言明してゐる。フィッシャー條例は斯くした動機の下に起草されたものであつて、草案者フィッシャー自身「それは大戦によつて曝露されたイギリスの缺陷が生んだものであり、この缺陷の修理補填を目的とする」言つてゐる。従つてその主眼點は教育の機會を均等且つ充分ならしめ、イギリス人の身體・精神・心情を健全ならしめ、その爲めに教育の國家的統一を企てたものである。この條例が幼児の保育を獎勵したのは當然である。かくして「ナースリー・スクール」の運動となつたのである。従つて教育の他の全ての分野に於けると同様、イギリスの保育界にまつても世界大戦は進歩への大きな動機となつたと言ふことが出来る。

この運動には二つある。一は保育學校スケールで他の一つは保育學級クラスと呼ばれてゐる。保育學校には他方の教育當局の設立になるものと私立のものがあるが、孰れも當局から總經理の半額若しくはそれ以上を補助されてゐる。一九二六年現在に於てこの種の保育學校は五十人から二百六十人の幼児を收容するものにとりて大小二十七校あつた。浴場・寢臺・食堂・病室等の設備があり、幼児は二十五人乃至三十人を一群團して一人の保姆が附添ふ。幼児は一日をこゝで過ごし晝食は學校の手で給されるが、両親も働いてゐる者の子供は午前七時から夜にいたるまで學校に預り、三食も學校で攝る。學校は特に幼児の健康・衛生に留意し専任の醫師を置いて身長・體重、一般健康狀態の表を常に更新してその増進を圖る。共に、知性感情・動作の觀察・テスト表を作り、精神的・肉體的發育の相關々係を明かにするやうにしてゐる。そのために保育學校はこの頃から英國に興つた兒童研究の中心をなすやうになつた。

保育學級クラスといふのは保育學校と異つて獨立した學校でなく、從來の幼児學校内の更にその一部をなすもので、従つて收

容する幼児數も少く設備も不完全であるが、手輕に設立出来る所から條例發布後急速な勢で新設され、マンチェスターだけで一九二六年には五十を算するにいたつた。其後も保育學校を比して遙に高い増加率をもつて各州に設けられたが、その大部分は幼児學校の從來の保育を大した變りがない。保育級のための特別の建物ほもこより、運動場、遊戯室、浴場、寢臺等もなく、唯幼児學校の一隅を借りて、ミルクを與へ、僅かばかりの玩具を給し、カンバスを張つた輕便寢床がある程度のものである。保育學校で晝食を供するのは、幼児の保健衛生に適した食事を攝らせるこいふ目的の他に、その間に幼児の行儀を正し、衛生的習慣を養ふこいふ點に重きを置いたのであるが、保育級では唯ミルクを支給する程度でこの意味の學校給食にまで進んでゐるのは少い。然しマンチェスターが卒先してその改善向上に努力し、最近では幼児學校の校舎の端に南面した建増しを造り、入口も別にし、出来るだけ保育學校に近づくやう、特に保育級のための遊戯場、運動場、浴場、休養室等を造り、晝食を給する他、保育學校と同じく特別の事情のある兩親のために終日子供を預かるやうになつて來た。

三

保育學校(級)は戦後の特別の事情によつて生れたものであるが、フレールベル及びモンテッソリーの教育思想をその保育の實際に反映させ、量的にも質的にもイギリスに於ける保育史に一大時期を劃すこいふ事になつた。更にそれはモンテッソリーの児童實驗の中心地になつて、その後の保育にますます大きな影響を與へたこいふ事を思へば、決して忘れるこいふ出來ない功績を残したものこいはねばならない。保育學校の保育原理は純然たる生活教育とも言ふべく、教授は一切行はず、生活の間々にその一々の言行動作に教育的意義をもたせんとしたものであつた。入浴・睡眠・食事の時間を除いては、幼児の日課は小動物の飼育、植物園・花壇の世話、遊戯室の掃除・整頓・食事のしつらへに給仕、齒の手入、教育玩具による遊戯、お伽噺、唱歌、遊戯等で満たされる。そして入浴・食事等には大きな訓練上の意義が伴はせられるこいは既に述べた通りである。

時にこの時代の幼児に著しいことは、無意識のうちに受ける感化といふことである。彼等の生活は全て無意識の活動に言つてもよい。保育學校はこの事實に特に注意し、保姆は室や諸施設の外見・排列、毎日の行事から自分達の身の廻りにまで細かく心を働かせ、意識下に於て幼児の受ける印象・感化を美しく且つ有益ならしめることに力める。そのため保姆について容貌・音聲の調子・態度・思想・感情等にわたつてかなり嚴密な要求が行はれる。

保育學校の斯うした特徴なり組織なりは幼児學校の方法や氣分に大きな影響を及ぼし、その進歩改善に役立つたことは言ふまでもない。

今日の幼児學校の保育は全てこの生活主義、作業主義、自發活動の原理の下に行はれてゐる言つてよい。先づ幼児の生育に相應しい適當な環境の附與整理といふことが保育の第一歩である。充分な光線・新鮮な空氣、自由な運動遊戯、幼兒の身體的狀態に適した榮養食、快よい眠り——これ等は健全な身體を作る上に大切な條件である。而してイギリスに於ては次第に増加しつゝある保育學校、従前より豊かな物質的基礎の上に立つてフレールの遺訓の實現に力めつゝある幼稚園は勿論、保育學級や幼兒學校に於ても幼兒の身體的發育を向上せしむべき建築施設は著しく改良されつゝある。次に幼兒の魂・精神ミを健全に發達せしめるものは賢明に裝備された教室・庭園・教育的意義に富んだ器具・遊具である。それは宛も光線・空氣を存分に消費する自由潤達な運動が彼等の健全な食慾を増すと同様、彼等を精神的に飢渴せしめてその潑刺たる好奇心・興味・知識慾を刺戟するものでなくてはならない。保育學校を中心として行はれつゝあるモンテッソーリの科學的兒童心理の研究は、保育上のこの要求に應ぜんとするものである。作業に於ける興味といふことは眞の意味の訓育を可能にする唯一の方法である。一つの問題一つの謎を解くために幼い力の全てを緊張させた努力こそ即ち何よりも効果的な訓練である。かうした保育の効果を完からしめるものは自由である。幼兒は自由にその場所を變へ、與へられた

器具・恩物・遊具を自由に使用し、自由に群から出入し、自由に自分の作業を計劃按配することが許されねばならない。以上が世界大戰を一轉機として、モンテッソリーの思想の影響の下に目覺しい躍進を遂げて今日にいたつてゐるイギリスの保育法の概略であるが、リリヤン・ド・リサはその「イギリスの學校」(一八二〇)に於て最近の保育が齎した功績に就いて次のやうに言つてゐる。

「保育學校・幼兒學校が國民に致した貢獻は故らに注意を喚起すべく餘りに明かである。幼兒に早くから眞の生活を知らせ、彼等のうちなる全ての性質・傾向・力を引出してその結實をその後の學校教育に委ねるのが保育の任務である、健全なる身體の發育、言語能力・知覺能力の發展・これが保育の與へる意志の強化・一人生への基礎である。更に保育學校に於て幼兒は自信・克己・知的好奇心・正直・勇氣・企劃心・判斷力・獨立の意志決定・協同心・犧牲的精神・親切等の諸徳を養成される。」

四

ド・リサ女史は更に進んでイギリスの保育界が進むべき將來を指示し、今後は保育者即ち保母の養成に保育學校の發達をはかるこゝがこの事業を大成せしめる上に最も必要なこゝであると言つてゐる。

元來イギリスの教育は社會生活の實際要求に基いて次々立てられたものであつて、政治家や教育學者の指導によつて上から論理的計劃的に定められたものでなく、従つてそこに統一を缺く。而してイギリス人の保守的な傾向は實際上何らかの價値があり効果が見られる限り、舊くなずんで來た制度を捨てるこゝをせず、大概の不合理には我慢するのである。今日でもイギリスの教育系統には二つあつて、一般の公立小學校から中等學校に通じる系統は第三・第四階級のためのもので、上流階級のものはいートンやラグビー等の公衆學校を経てオックスフォード、ケムブリッジ等の由緒ある大學に通じ、昔乍らの嚴然たる階級的對立を示してゐる。保育に於てもこの二つの系統は見られる。即ち公衆學校に入る上流階級の子

弟を收容する幼稚園に對して、公共團體や教會の設立した一般小學校に附屬する幼兒學校があるのはこの爲めである。而して文部省は一九〇八年になつて始めて小學校教員養成のための師範學校内に保姆養成の機關を設くべきことを奨勵したが、なか／＼實現出來ず、一九一八年の教育條例が出るに及んで始めて保育者の資格なるものが公に定められることになつたのである。これに對して幼稚園の方ではこの運動がイギリスに入來つて「國民フレーベル協會」が設立されると共に、保姆養成の機關も設けられ、幼兒學校の保育が資格を問はず小學校教師や或は日曜學校・教會關係者等の素人によつて行はれてゐたに對して、一定の課程を經、一定の試験に合格した資格者のみを幼稚園の保育に任せしめてゐた。シリル・ノルウッドはその「英國の教育制度」の中で「イギリスの教育はその目的も制度も上から下へミ傳はつて行つたもので、平板の上の風景畫よりも峰あり谷ある複雑した景色に例へられるが、最近に於ける改革の努力は、峰をならして谷にするのではなく、谷を高めて峰ミ同一水準に持ち上げるこゝによつて教育の機會を均等ならしめんとしたものである」こゝいふ意味のこゝを言つてゐるが、保育者の養成に於ても、上級子女を收容して早くから充實した内容をもつ「フレーベル協會」の養成制度に於ても範ミなつてゐる。協會の養成所は修業年限一年の基本科ミ二ヶ年の高等科からなり、その科目は(1)幼兒の性質に關する知識——實際の觀察・心理學概論 (2)自然科學 (3)手工 (4)學級教授——教授批判 (5)音樂・唱歌 (6)黑板習字・圖畫 (7)體操及び衛生學 (8)フレーベル、ペスタロッチの學說 (9)應用幾何學で、高等科に於ては更に之を循環的に詳細に教へる。修了後は「協會」の施す試験に合格して始めて保姆の資格を與へられる。猶この試験はハイスクールやカレッジの卒業者も受けるこゝが出来る。

然し乍ら現在でも幼稚園及び一部の備つた保育學校・幼兒學校を除いては、保育者の素養は著しく低く、有資格者の數は少い。そこでド・リサは次のやうに言つてゐる、「特別の教養を經た保育者がつゞ／＼増加せねばならない。今日保育

に従事してゐる人の大部分はこれに就いて熱意も有たず又特別の訓練も受けてゐない人達である。幼児保育が小學校の教育と異なるのは、準備學校の教育と大學のそれとの違ひよりもつゝ根本的であつて、全然異つた種類の教師と訓練とが必要なのである。唯カレッジに於て特定の科目に關する知識を與へられたゞけでは不十分である。保育者は事柄の知識よりも人間性特に幼児期の特質に對してその注意と興味とを向けねばならない。更に又一定の方向に向つた子供の達成よりも、その全面的生長に注意し、科學的態度よりも人間としての心情に於て子供に觸れ得る人でなくてはならない。その身體に關する知識、子供についての實地の經驗も現在のカレッジで與へられるものよりはるかに多くなくてはならない。こはいへこのこは保育・幼兒學校の教師は知識的教養は低くてもよいといふ意味ではない、否、高い教養と深い知識を有つ人にして始めて幼兒の疑問や困惑を理解して、これを自ら解決を得べき正しい方向に差し向けてやるこが出来るのである。而してその上に人間の最も尊い財たる魂の若芽をやさしくいたはり育てるためには、精神的にすぐれた同情と慈愛に富んだ女性の心が必要なのである」。

五

イギリスの保育を將來發展さすべき第二の道は一九一八年フィツシャー條例によつて始められた「保育學校運動」を更に盛大ならしめるにある。これについてリサ女史は「現在イギリスでは五歳以下の子供で何らの身體的教育的保護と配慮を組織的に與へられてゐないものが二百萬以上ある。これは教育の全制度と引いては國民生活そのものへの大きな不幸である。保育機關をその必要ある全ての子供に對して擴張するこは文部當局の焦眉の急務である。保育機關は國民教育制度の基礎その第一歩をなすものでなくてはならない。なぜなら人の教育は搖籃からなされねばならないから。哺育——保育——教育は連續した過程をなすべきものである。」と言つてゐる。

忽七版
東京女子高等師範學校
教授・附屬幼稚園主事
倉橋惣三先生新著

▲四六版三百餘頁頗る美本
▲口繪十六枚・插繪多數入
▲保育法の實際實景紹介
▲定價二圓五十錢送十六錢

幼稚園 保育法と眞諦

○倉橋先生保育眞諦

日本のフレイベル倉橋先生の代表的名著茲に出來。發行後僅に數ヶ月にして既に七版を突破し、我が國保育界の明星として一齊に大歡迎を受け愛讀又熱讀さる。東京女高師附屬幼稚園の園児等は先生を「おぢさん」と稱して相敬慕す。此の倉橋先生の保育法の眞諦即「コツ」を悉く本書に披瀝さる。

○現代の保育法原論

本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於ける最も完備し且系統も保育法原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者と著書少く系統も力作は本書のみ。

○保育界耆宿の力作

著者は幼兒教育並に家庭教育の第一人者として曩に長くも此點に御關心深き、兩陛下の御前講演の榮に浴され又屢各官家よりの御招聘ある我國保育界の耆宿にて、本邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事と文部省社會教育官とを兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。

本書の特色

- 第一篇 幼稚園保育法の眞諦
 - 一 教育に於る目的と對象
 - 二 幼兒生活と幼稚園生活
 - 三 形態
 - 四 生活へ教育を己充實
 - 五 幼兒生活の充實指導
 - 六 幼兒生活の誘導
- 第二篇 保育案の實際
 - 一 無案保育
 - 二 保育案の意義
 - 三 誘導の保育案
 - 七 幼兒生活の教導
 - 八 幼兒生活の陶冶
 - 九 幼兒の個性
 - 十 幼稚園に於る保姆の位置
 - 十一 保育案の實際
 - 十二 無案保育
 - 十三 誘導の保育案
 - 四 保育案の採りどころ
 - 五 保育案と保育項目
 - 六 保育案立案度及徹底度
 - 七 保育案と自由遊び
 - 八 保育案と保姆
 - 九 保姆の創造性
 - 十 保姆の生活性
 - 十一 幼稚園の朝
 - 二 自由遊びから仕事へ
 - 三 個分組
 - 四 個の時間割
 - 五 生活態度による分組
 - 六 流れゆく一日
 - 七 生活の偶發性
 - 八 日々の實際生活の尊重
 - 九 旅行へ
 - 十 大形の家を中心として
 - 十一 賣出し
 - 十二 人形の家を中心として
 - 十三 急行列車「うさぎ」號
 - 十四 特急列車「うさぎ」號

東洋圖書株式會社發行

東京市神田區保町一丁目
東京發售部 一〇三番

〔書良の備必須必〕

東京女高師教授 倉橋惣三先生 同校新庄よここ先生 共著
 附屬幼稚園主事 保母 新庄よここ先生 共著
 洋綴天金上製 菊列四八〇頁 定價三圓八十錢

本日幼稚園史

特色
 一、二十年苦心の結晶漸く完成す 大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す。
 二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る 倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
 三、日本幼稚園史として比類なし 歴代 皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔。

〔内容目次〕

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|--------------------|-------------|--------------|--------------------|--------------------|---------------|---------------|---------------|------------------|-------------|--------------|-----------------|------------|--------------|--------------|-------------|------------|-----------|----------|-------------|
| 第一編 沿革及施設史 | 第一章 幼稚園開設前期 | 第一節 明治文化の建設 | 第二節 幼稚園開設の機運 | 第三節 幼稚園開設 | 第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設 | 第二節 開設後の経過 | 第三節 開園及開業式—皇 | | | | | | | | | | | | | |
| 第二章 幼稚園開設 | 第一節 女子師範學校附屬幼稚園の創設 | 第二節 開設後の経過 | 第三節 開園及開業式—皇 | 第三章 女子師範學校附屬幼稚園(一) | 第一節 創立當時の規則及學年休業日 | 第二節 建物庭園及職員 | 第三節 保育科目及保育用具 | 第四節 幼稚園參觀記及追憶 | 第四章 女子師範附屬幼稚園(二) | 第一節 行啓 | 第二節 恩物の名稱その他 | 第三節 行幸 | 第四節 保母養成機關 | 第五節 保母練習生の設置 | 第六節 保母練習科の設置 | | | | | |
| 第一節 行啓 | 第二節 恩物の名稱その他 | 第三節 行幸 | 第四節 保母養成機關 | 第五節 保母練習生の設置 | 第六節 保母練習科の設置 | 第一編 保育の實狀(保育) | 第一章 一日の開課(保育) | 第二章 保育科目の恩物 | 第三章 保育科目の改正 | 第四章 説話 博物理解 | 第一編 唱歌遊戯 | 第二編 公令、功績者、保育文獻 | 第一章 功績者 | 第二章 中村正直氏 | 第三章 關信三氏 | 第四章 松野くらら女史 | 第五章 豊田美雄女史 | 第六章 小西信八氏 | 第七章 保育文獻 | 第四編 其後の普及發達 |

幼稚園の名著
 八版 森川正雄著 森川正雄著
幼稚園の理論及實際
 六版 森川正雄著 森川正雄著
幼稚園の經營
 二・〇五 森川正雄著 森川正雄著
保育
 二・〇五 森川正雄著 森川正雄著
教育
 二・〇五 森川正雄著 森川正雄著
學法
 二・〇五 森川正雄著 森川正雄著

東大 東亞 社會資合式株書圖洋東 發兌

東京市神田區神保町一丁目一丁 振替東京一〇三〇七番
 大阪市南區安内寺堂町一丁目二番八地 振替大阪三九五五番

兒童心理學文獻抄

立教大學心理學研究室

牛 島 義 友

園兒を中心にした兒童心理學の最近の業績を紹介する様にこの倉橋先生の御依頼に基き、今後及ばず乍ら邦語の文獻を中心にし、必要に応じて外國の研究を取まぜて抄録する事にする。研究の新しい古いによつて必ずしも其價値を左右するものではない故に、典據的見なされるものは古い研究をも引合に出す事にした。又文獻を斷片的に羅列したのでは讀者の理解も困難だし興味も少い事と思ふ故に、一研究を中心にし、それと相關聯せる諸研究の結果を以て補足して行き、唯一つの研究結果から性急に結論する危険をさげやうと思ふ。又問題の配列も組織的にして先づ兒童の精神活動を規定する條件たる遺傳・環境の問題からはじめ、幼兒の精神發達に及び、更に特殊な問題の子供まで取り扱つて行きたいと思ふ。

この欄が幾分でも研究に實際の橋渡しとなる事が出来たらと思ひつゝ筆を進める。

一 遺傳

遺傳といふ言葉程教育者に失望的なものは少からう。先天的に痴者なるものは、如何に教育しても常人以上に達する事は出来ないこの鐵則は教育者の勞を認めない宿命論の様である。遺傳か、教育かの問題は生物學者と教育家との間の久しい論争主題であつたが、眞理は其中間にあるを考へるのが、眞理でもあり實際的である。

シュテルンは人間生活は遺傳(先天説)或は環境(經驗説)の唯一方のみによつて規定されるものではなく、其兩者の複合的な作用によつて規定される、ミして複合説を説いて居る。又實際教育家の立場ミしても遺傳素質を無視して低能な兒童に過重な負擔を負はせても決して子供を幸福にするものではなく、寧ろ其分に應じて萬能な事を教へ、獨立の生活が出来様に指導してやるのが正しい事は申すまでもなからう。

又遺傳の事實は教育を否定するものではなく教育を最も效果的に導く指標である。又遺傳によつて、人間生活が規定されて居るからこそ、人間教育は唯單に一個人の教養の問題に止まらず、更に親の教養、社會の淨化運動にまで發展して來り教育家の使命を益々大ならしめるものである。

精神的特質即ち智能、情意的諸性質或は特殊な音樂・繪畫等の天分の遺傳を研究する方法には二通りあり、一つは家系的な研究で一つの系統の家庭を數代に遡つて見て其特質(負因)が現れて居る状態をしらべる方法であり、他は統計的に相關係數に基づく研究である。

先づ後者の最近の一研究たるカフターの研究を紹介する。

カフター言語並に數的能力に就いての家族の類似 H. D. Carter; Family resemblances in verbal and numerical abilities Gen. Psychol. Monog. XII. 1932 此研究は智能の中でも言語に關した能力ミ數學に關した能力が同一家族の者の中で如何に類似してをるかを調べたものである。

調べる方法は一家族内の兩親子供に算術検査ミ語彙検査を課して其成績を基にして研究する。此研究に進んで被檢者ミなつてくれた人は合計百八家族で、此家族には皆兩親が揃ひ、一名以上の十二歳以上の子供が居る。故に結局親子の類似關係ミして二百十六組、兄弟同志の關係ミして二百三十組のものが材料ミなつて居る。

親子並びに同胞間の類似関係を定めるのは、相関係数に基づいてなされる。相関係数は二つの物の間の関係の程度を示す値で例へば算術で一番の親の子供はやはり一番であり、二番の親の子は二番、三番の親の子は三番等の如く、完全に順序が一致した様な場合には相関係数はプラス一となり、親子の順序が全然無関係なる時は零となり、反対に親が一番で子供がビリであるといふ様な反対の場合には、マイナス一に近くなる様な値である。即ちプラス一に近ければ近い程、類似度が高く、零に近い程無関係である事を示す。係数が一になる様な事は實際にはなく〇・三位から上なら相當に關係があるを云へる。先づ親子の關係を見るに次の如くなる。

| | 語彙 | 算術 |
|-----|-----|------|
| 父と息 | .21 | .1 |
| 父と娘 | .26 | .04 |
| 母と息 | .07 | .12 |
| 母と娘 | .34 | .24 |
| 平均 | .22 | .195 |

即ち語彙の平均は・二二で餘り高くない、算術の場合は更に低い。故に親子のこの類似性は餘り高いとは云へない。次に同胞の類似關係を見るに左上の如く、平均・三五及び・二二で親子の場合より相關々係が深い。

同胞同志は男女の區別なりにすべての同胞間の相関係数であり、次のものはそれを分析的に見たものである。

| | 語彙 | 算術 |
|-------|-----|-----|
| 同胞同志 | .34 | .21 |
| 兄弟と姉妹 | .31 | .17 |
| 兄と弟 | .43 | .21 |
| 姉と妹 | .33 | .23 |
| 平均 | .35 | .21 |

之と同じ様な研究は從來非常に多くなされて居り、得られた結果も少しづつ異なる。而し多くはカタターの研究結果よりも一層高い相關々係を示して居る。今從來の智能遺傳に關した諸研究を一括して表示して參考に供する。この表には、年代、研究者、並びに相関係数を示す。先づ親子の智

能相關は・二七乃至・四九に及んで居る。バンカーが比較のため全然血縁の無關係な八十三組の者をこつてその相関係数を出した所マイナス・一一七といふ風になり殆んそ全然類似がない。之に對して血縁關係のある場合には非常に高い類

似を示してゐる。パークスの養子の場合も同様で養父と養子の間の相関は實父子に較べるに問題にならぬ程低い。

次に、同胞間の智能類似度を見るに・三三乃至・六九に及び、親子の場合より一層高い類似度を示してゐる。かゝる同胞間の類似性はその養育され、教育される環境が同様であるといふ事も關係はするが、主な原因は先天的な遺傳關係によるものである。ピアソンは遺傳の影響は・五一に對して、環境の影響は・〇三位であらうと述べて居る。環境の影響がかくまでないとは考へられないが併し遺傳の影響が非常に大きい事は否定出來ない。

親子智能の遺傳

| 年代 | 研究者 | 相關係數 |
|------|------------------------|--------|
| 1936 | ウ ッ ツ | .30 |
| 1907 | シ ュ ス タ ー エ ル ダ ー ト | .312 |
| ” | ピ ア ソ ン | .49 |
| 1917 | コ ッ プ | .32 |
| 1928 | ウ キ ロ ビ ー | .35 |
| ” | ジ ョ ー ン | .508 |
| ” | フ リ ー マ ン | .35 |
| ” | パ ン カ ー | .49 |
| ” | (同 無關係者) | -.117) |
| ” | パ ー ク ス | .47 |
| ” | (同 養子の場合) | .13) |
| ” | 村 瀬 雄 平 | .478 |

同胞間の智能類似度

| 年代 | 研究者 | 相關係數 |
|------|------------------------|------|
| 1903 | ア ー ル | .51 |
| ” | ピ ア ソ ン | .52 |
| 1907 | シ ュ ス タ ー エ ル ダ ー ト | .405 |
| 1915 | ス タ ー チ | .52 |
| ” | テ キ ス タ ー | .69 |
| 1917 | ス タ ー チ | .42 |
| 1918 | ピ ン ト ナ ー | .39 |
| 1919 | ゴ ル ド ン | .61 |
| ” | ド リ ン ク ウ ォ ー タ ー | .45 |
| 1924 | ハ ー ト | .44 |
| ” | レ ン シ ュ | .54 |
| 1925 | ヒ ル ト レ ッ ト | .68 |
| 1926 | グ リ フ ィ ッ ツ | .61 |
| 1928 | ソ ー ン ダ イ ク | .60 |
| ” | ウ イ ロ ビ ー | .42 |
| ” | ジ ョ ン | .49 |
| ” | パ ン カ ー | .49 |

尙遺傳に關係しては非常に多くの問題がある。例へば父の影響と母の影響に關してゴルトンは、父系の影響は詩人、藝術家に多く現はれて居り、母系の影響は宗教家に多く現はれて居る。ハイマンズは寛容の徳は母の影響の方が大である云つて居る。又父の性質は娘よりも息子に、母の性質は息子よりも娘の方に多く傳はる(同性遺傳)云ふ事をペーテル又は智能に關係して、クラウゼは繪畫素質に關係してのべて居る。

又祖先の影響については、ゴルトンの祖先遺傳の法則がある。即ち一個人は父母から二分の一の性質を受け、祖父母から四分の一、曾祖父母から八分の一等々の性質を受けつぐといふ事を天才の家系的研究から見出して居る。

家系的研究では、低能者、犯罪人、精神病者、の先祖を尋ねて行つて同じ様な缺陷者をさがし出して居る。この中ゴッダードの研究したカリカック家は有名である。ゴッダードの白痴院に入つて來た一少年の先祖にマルティン・カリカックミ云ふ人が居た。彼は南北戦争の折に兵士として出征しある低能の女と關係して子供を生んだ。その子孫が一九一二年迄に五代四百八十名あるが、その中に低能者百四十三、私生兒三十六、賤業婦、三十三、其他悖德者が多數あるが一方このマルティンが凱旋後正式に結婚した普通の智能の妻からは四百九十六名の子孫が出て居るが、只五名の大酒家、精神錯亂者を除く外は皆立派な人になつて居る。

又ダグデールの研究したジューク家の先祖は一七二〇年に生れ、その五人の娘から問題の子孫が出て居る。五代に互り七百名の子孫があるが少數の眞面目な労働者を除いては、大體に於て、犯罪者、賣笑婦、浮浪者、貧窮者のみの一大集群である。即ち常習性乞食が三一〇人、自己の招いた悪性の病氣によつて死んだ者四四〇人、賣笑婦は女の半數、犯罪者一三〇人、その他。又一八〇名の者は政府の救助補助金を受けて居たがその額は合計百二十五萬弗以上に上る云はれて居る。以上、雜然と遺傳に關係した諸事實をのべたが、兎に角人間の精神生活が遺傳に依つて根本的に規定されてをる事を認め、之に應じて諸種の教育方策を講じなければならぬ。

幼兒の保育に携はれる方々としては問題の子供が在る場合には先づ其遺傳關係を調べる事によつて其原因が先天的なものか後天的なものかを明らかにして善處する必要がある。又優秀な負因は早期に發見してそれを助長し完成させてやる事は教育者の最も樂しき務である。



晴着

—— エイチ、ヂー、ウエルズ ——

東京女子高等師範學校教授 津田芳雄

或所に小さい男の子がゐて、お母様から素敵な晴着を拵へてもらつた。それは緑色の地に金線の飾を着けたもので、織り方がまた優美さ云ひやうのない程手の込んだものであつた。それに頤アテの下に結ばれるふはりミしたオレンヂ色のネックタイも附いて居り、ボタンがまた新しく、星のやうに光つてゐた。その子はこの着物が無暗に氣に入つて、得意に思つた。初めて着た時には姿見鏡の前に立つて、驚いたり、嬉しかつたりで、暫くは鏡から離れきれないのだつた。

その子はこの着物を何所へでも着て行つて、あらゆる人に見せたかつた。今まで自分が行つたこゝのある所ミいふ所、また人の話に聞いたこゝのある場所ミいふ場所は思ひ浮べてみて、今それらの場所へ、この光つた着物を着て行

くミしたらごんな氣持だらうなごミ想つてみたりした。そして直ぐにもこの着物を着て牧場の長い草や暑い日光の中へ跳んで行きたいご思つた。只この着物を着るために。

所がお母様が「いけません」ミ云つた。もうこんな綺麗な着物は出来ないから、ミても大事にしなければならぬ云つた。お前はこれをいためないやうにして、お式の日がお祭の日にしか着てはいけない、お前の一番上等の着物なんだからミ云つた。さう云つてお母様はボタンの光が曇らないやうにミ一つくそれを薄葉紙に包んだり、袖口や肘やその他着物のいたみさうな所へ小さい當アテを縫着けたりした。

その子はその事されるのは嫌だからよして下さい云つたけれど聽かれないのだから仕様がな。たうごうお母

様に説得されてしまつて、その美しい着物を脱いで、綺麗にたゞんで、しまつて置くこゝを承知した。けれどもその子は始終その着物のこゝみや、また、その着物に當を着けたり、ボタンを紙で包んだりしないで、本當な晴着の儘をちつとも氣にしないで着られる晴の場合のこゝばかり考へてゐた。

或晩その子は、一つのボタンの包紙を取つてみるに光が少し曇つてゐた夢を見た。そして夢の中でそれを非常に悲しんで、そのボタンを何度も何度も磨くけれど、光りはせず却つて少し曇つてくるのだつた。そして目を醒ましてからも臥ながら、光の曇つたこゝばかり考へて、こんな場合か知らんが、晴の場合に若し一つのボタンが新しい時のピカ／＼する光から少しでも曇つてゐたらそんなに悲しいだらうと思つたりした。そして幾日かの間はその思ひでその子は悲しかつた。

その次にお母様がその着物を着させた時に、その子は包紙をどれか取つて、本當にボタンが曇つてゐないだらうか、見たくてしやうがなかつた。教會へ行く途々にも激し

いさうしたい氣持が一杯であつた。けれどもお母様が繰り返し戒めたこゝを思ひ出したので思ひ止つて、着物を無事に着て歸つた。そして元のやうに綺麗に仕舞つて置いた。

さて、かうしたお母様がその着物を着るについて言ひ附けた掟は全部その子は守つた。必ず忠實に守つたのだつた。所が或不思議な晩のこゝ、その子は目を覺まして窓の外に輝いてゐる月の光を見た。その子にはその月の光が普通の月の光ではないやうに思はれてしやうがなかつた。またその夜も普通の夜ではないやうに思はれてしやうがなかつた。さういふ妙な確信を心に持つて、暫くの間その子はうき／＼してゐた。が暗に頻りに囁くものやうに思ひに思ひが次々重つていつた。

それから急に、その子はすつかり目が覺めてしまつてベッドの上に取り上つた。その時はもう心臓の鼓動が非常にせはしくて、體中、頭の上から爪先まで顫へてゐた。その子はもう心を決めてゐるのだつた。今こそあの晴着を本式に着るのだといふこゝを自分で知つてゐた。それについて疑は少しも持たなかつた。が恐かつた、非常に恐かつ

た。けれどもまた一方、嬉しいこども非常に嬉しいのだつた。

その子はベッドから出て、しばし窓際に立つた。そして月の光を一杯浴びてゐる庭を眺めては、これから自分のするこゝを考へてみて身顛した。あたりは蟋蟀の小さい、高い啼き聲や、小さい生き物の低い啼き聲で一杯だつた。その子は家の人の目を覺さないやうに、そつこゝと廊下を進んで行つて、自分の晴着がしまつてある大きな黒い戸柵の所へ行つた。そしてその晴着を一枚一枚取出して、靜かに、しかも一生懸命になつてボタンを包んだ薄葉紙やその他の當を取りはづしてしまつた。するさお母様から初めて戴いた折に見た儘のきらびやかな晴着をなつた。

ボタン一つ疊つてゐるのではなく、絲一條色が褪せてゐるのではなかつた。その子は音をたてないやうに急いでそれを着た時、もう泣きたい程嬉しかつた。それからそつこゝ急いで庭に面した窓の所に歸つて、窓敷居の上に出る前にちよつこ其處に立つて、月の光に着物を光らせ、星のやうにボタンをきらめかした。それから出来るだけ音をたて

ないやうにして下の庭道に下りた。家の前に立つて見るこゝ、それは晝間見るやうに、白くはつきりさ見えた。そして自分の部屋の窓扉以外はぎの窓扉も眠つた目のやうに閉つてゐて、その壁には木が黒い靜かな影を投げつてゐた。

月の光に照らされた庭は晝間見る庭とは大變違つて見えた。生垣のあたりでは月の光が纏れてゐた。花さいふ花は白か、深紅な黒色に光つてゐて、空氣は蟋蟀の小さい啼き聲に震へてゐた。夜啼鴛は木の繁みに姿を隠して啼いてゐて、草や木の葉は虹色の露の寶石に蔽はれてゐた。夜は今までの夜よりも暖かく、天は何かの奇蹟によつて平生よりも大きくて同時に近く見えた。そして象牙色の月が世界を支配してゐるのに、空には星が一杯見えた。

その子は嬉しくて堪らなかつたが叫び聲も立てず、歌ひもしなかつた。彼は暫く怖けたやうに立竦んで、それから變な小さい叫び聲を出して、兩腕を差伸して、この圓い全世界を一度に抱かうとするかのやうに駈け出して行つた。

そして庭を眞直に通じた小道は進まないで、花壇や、濡れた丈の高い勾ひ草の中や、更に丈の高い花の中や、膝まで

來る廣く植えられた木犀草の中なぎを構はず進んで行つた
それから大きな牛垣にぶつかつて、それも構はず押し分
けて行つた。そして茨の刺に深い傷を受け、晴着の絲まで
切られたのだが、その子は少しも氣にしなかつた。かうし
たこども、僅れの晴着を着るこもの中だから承知してゐ
たので、氣にならないのだつた。その子は「僕は晴着を着
たのが嬉しい。こんなにして晴着を着てゐるのが嬉しい」こ
云つた。

生垣の向ふには池があつた。少くとも晝間は池であつた
所のものがあつた。けれども夜見るに、それは蛙の啼聲に
騒がしい銀の月光の大きな鉢であり、變な模様に燃られた
不思議な月光のそれであつた。その子はその水の中へ黒い
燈心草をかき分けて、膝まで、腰まで、それから肩までこ
這入つて行つた。彼の打つ水は黒き光の小波となり、その
中で空の無数の星が、岸邊に項垂れた木々の纏れた影の網
に掛つてゐた。

終にはその子は泳いだ。さうして池を渡つて向ふ岸に上
つた時には青浮草ではなくて、長い銀のリボンを滴るやう

に曳いてゐると思つた。それからその向ふ岸の刈らない草
の纏れを抜けて行つて息を切らして大きな道路に出た。彼
は「僕はこの場合に相應しい着物を着て来たこもがこても
嬉しい」こ云つた。

その大きな道路は矢のやうに眞直かつた。夜啼鶯の歌聲
の間を通じた白き光の路であつた。その路を彼はお母様が
あんなに手をかけて拵へて下さつた着物を着て、走つたり
跳んだり、また或時は歩いたり喜んだりして進んで行つた。
路は埃が深かつた。けれどもその子にこつてはそれは真白
い柔いものであつた。さうしてさつきさき進んでゐる中に一
匹の大きな蛾が彼の濡れた微に光る姿の周りに飛んで來た。
初めは彼はそれを氣に止めなかつた。がやがてそれを手招
きして、頭の周を飛び廻るその蛾ミダンスのやうなこもを
した。彼は「やさしい蛾だね、好い蛾だね。それに今夜は
素晴らしいね、素晴らしい世界の夜だね。ねえ、お前は僕の着
物を綺麗だと思ふかお前の羽や、地球ミ空のこの銀の着物
のやうに、綺麗だと思ふ？」かこ彼は云つた。するに蛾は
段々ミ近く飛び廻るやうにして、その天鷲絨のやうな羽を

微かに彼の脣に觸れた。さうして翌朝になるに、その子は石坑の中に落ちて、頸を折つて死んでゐるのだつた。そしてその美しい晴着も血が少し着いて、池から曳いて來たあの青浮草で汚くよごれてゐるのだつた。けれどもその子の顔は非常に嬉しさうな顔をしてゐた。若しあなた方がそれを御覽になつたら、あの冷い滴る銀は實は池の青浮草だまゐふこもその子は知らないで、幸福に死んだのだこお思ひになつたでせう。

(をはり)

本園の歴史を語る初めの數章(口繪の四參照)

(一) 軸及び類

イ、開園當時の恩物手技

明治十年頃の附屬幼稚園幼兒を實寫せるもの

ロ、昔の幼兒の手技

織り紙、繻ひ紙、摺み紙、剪り紙の實物を貼りしもの

ハ、幼稚園保育の圖 明治二十年

武村耕齋女史筆

ニ、幼稚園雙錄 明治二十九年

宮川春汀筆

(二) 圖書

幼稚園 幼稚園記 明治九年

幼稚園法二十遊嬉 明治十二年 恩物圖型 明治十八年
幼稚園通覽 明治二十六年

(三) 寫眞

附屬幼稚園最初の建物

明治九年創設期に於ける幼稚園職員

幼兒遊戲の圖 藤棚の寫眞 幼稚園職員 明治十七年

開設當時の觀察圖繪(五枚) — 衣食住の圖十二枚の中—

創設と共に附屬幼稚園縦覽室に掲げて幼兒に見せた繪

(四) 開設當時の幼稚園唱歌

幼稚園唱歌(手記) 唱歌の手記種々 明治九年より

小學唱歌集 明治十六年 幼稚園唱歌集 明治二十年

樂器の寫眞(和琴等)

(五) 手記

恩物大意 明治十二年 昔話 明治二十五年

保育法の筆記 創設當時

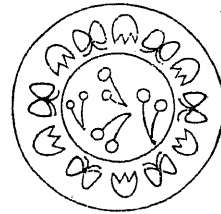
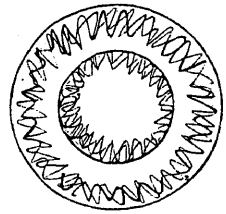
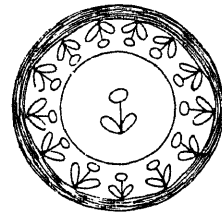
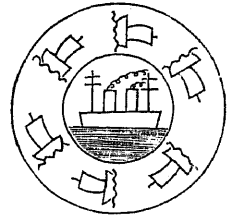
(六) 恩物數種

その他

昔話 桃太郎 折本 明治二十九年

幼稚園畫學書 明治十二年

附屬幼稚園一覽等 明治二十五年



圖案 やさか皿

東京市京橋昭和幼稚園

白根美智子

去る六月、女子師範附屬幼稚園で催されました保育研究
發表會で竹町幼稚園鎌田先生の、幼兒の圖案に就いての御
研究を伺ひ、又澤山に陳列された幼兒の作品を見せていた
だきまして、大層面白いと思ひましたので、それから色々
考へまして先づ最初子供に一番近くて親しみのあるお皿の
圖案をさせてみる事に致しました。「模様」の様なものは始

終取扱つて居りますが所謂「圖案」は始めてでございますの
で、子供達に何と説明したら此方の狙ひ所が通じるかしら
心配しながら、或る日子供達に「皆さんがお家でおやつ
をいたゞく時のお菓子皿を作りませう。お皿はこゝにあり
ますけれど眞白ですから皆さんで色を塗つたり模様を書い
たりしてきれいなお皿にませう。今日お家へ歸つたらお

家にあるお皿の色や模様をよく見て来て頂戴」とお約束しました。翌日はもう家庭で書いて持つて来た子供もあつた程で、登園するにお早うより先に「お皿書かせて」ご大騒ぎでございました。それで、先づ幼稚園のコーヒー茶碗やお菓子皿、果物皿などを見せて、お皿の模様には底(内圓)を主にしたもの、縁(外圓)を主にしたものがある事を知らせ、畫用紙に直徑約十糎と十五糎の二重圓を裏表両面に刷つたものを渡して色鉛筆(特に色鉛筆を使用させました)で畫かせました。綺麗な色を使ふこと、色の種類をなるべく數多く使ふ事を注意しながら一方は底の模様を主にしたもの、裏面はふちの模様を主にしたものを考へる様に申しました。これは餘程面白かつたらしく、早い子供で三十分、遅い子供は一時間半以上かかりましたが誰も止め様もせず立たうともせず實に一心に致しました。私共が難しかつたのではないかと心配致しまして、一つだけでもよいと申しましたが一つだけでやめた子供は一人もございませんでした。いつも繪云へば亂暴な汽車や軍艦ばかり書いて居ります男の子が小さいお花を一々色をかへては丹念

に書いて居りますのなき、思はず歩をこめて眺め入る様でございました。こうして畫き上つたのを並べて見ますと、面白い事には家で見て來たらしいのは僅か二つ程で他は全部子供自身のものでしかもどれも、お皿の圖案らしく、ちやんまごまつて居りました。その日、それを全部並べて置きましたら皆入れ代り立ち替り眺めては子供同志互に適切な批評をしあつて居りました。それを下繪にして、翌日はやさか皿(ボール紙を心にして經木を貼りつけお皿の形にしたもの、一枚參錢)にポスターカラー(普通の水彩繪具はあまで塗料をぬる時色が出ます)で畫かせました。昨日畫いたのを見ながら繪筆で直接お皿にかくのですから中中はかきらず、少しも眼が離せませんので二人か三人順々にしても一日に十枚位しか出来ません。「あまで呼んで上げますから遊んでいらつしやい」といくら言つても、一日中殆ど何もせずに並んで順番を待つてゐる子供がある程皆の喜び樂しみは大きうございました。數時間後ポスターカラーがすっかり乾きましたら色止めに白ニスを塗ります。そつミすれば大抵大丈夫ですが若し色が出る様でしたら噴

霧器でいたします。白ニスが乾いたら今度は甦生塗料(ドロツミした茶色の液ですけれど塗るに塗料の茶は少しも出ません)を塗ります。筆か綿につけて何回も繰返して塗ります。白ニスだけでも光澤は出ますが、こうしますと物が違ふ様にお皿の質が大夫になります上、ボスターカラーの色が冴えて非常に光澤が出て、幼稚な繪、むらな色が見違へる程引立ち逆も立派なものになります。殊にこれのよさは下手なら下手なりに圖案らしく見える事で、いつも繪に自信のない子供達も餘程満足で嬉しかつたらしく、登園の時お母様を引張つて来て自慢したりしてゐるのを度々見ました。小學校用にたてられた何さなく固い感じのお部屋もこれを壁かけに致しましてから少し可愛らしくなつた様な氣が致します。

こうした個人製作を申しますか、一組數十人の子供に一樣に同じものを作らせたり、させたり致します事は是非は別さしまして、子供が「自分のもの」を作る事を喜んで喜ぶますかはその御経験の事存じます。そうした意味で雨続きの日なき圖案の試みも面白いと思ひます。ボスタ

ーカラー、やさか皿、白ニス、甦生塗料、何れも小學校の手工材料を扱ふ店にございますから一度お試み下さいませ。

たゞ注意致します事は、雨の日、曇天の日に塗料を塗りますと、乾きが悪いため所々ふくらむ事がありますから、塗りますのはなるべくお天氣のよい日をおえらび下さい。

(カットは幼児の作品の一部)

幼稚園のかへりのこどもが誘拐されたといふ新聞記事を見ました。こんなことは滅多にあるまいと思ひますが、ほんとうにおそろしいことです、それにつけてもひとりかへりのこどもについてはよく氣をつけたいものです。幼稚園でも 家庭でも。

(S・K生)

童話

王女の猫の話

— カレル・チャペック —

東京女子高等師範學校教授 中野好夫 譯

四

アメリカの名高い探偵のシドニー・ホール君はある日この話をすっかり新聞で讀みました。そしてしばらくじつこ考へこんで居りましたが、やがて、よし一つ僕がやつてみよう、その魔法使ひを捕へるこゝが出来るかどうか、其決心致しました。そこでホール君は百萬長者に變装して、ポケットにはピストルを置いて、ヨーロッパへミ出發致しました。

ホール君は着くさその足でまづ警視總監に面會しました。警視總監は魔法使ひを捕へるためにこれまでいろいろやつてみた話を残らず長々話してくれました、そして一

番お終ひに、『まあそんな譯ですから、あの男を裁判にかけろこゝは絶対に不可能です。』と附加へました。

ホール君はニコリ笑つて申しました。『僕は四十日以内にきつミ捕へてお目にかけます。』

『出来るもんですか。』總監は申しました。

『ちや梨を一皿賭してみませうか。』ホール君は申しました。さいふのはホール君は梨さいへば目が無いので、それに賭をするこゝも好きでありました。

『よろしい。』總監は申しました。『だが伺いたいものです。あなたがあなたは一體どうなさうさうさいふのです。』

『まづ第一にはですネ、』ホール君は申しました。『一つ世

界中を一周してこなくちやなりません、だがそれには大變なお金が必要なのですが。』

そこで總監はぎつさりお金をホール君に渡しました、そしてさも心得たやうに、『ハハア、あなたの計畫ごいふのは分かりましたよ。だがこれは緊く祕密にしておかないといけませんな。なにしろ吾々が追跡してゐるこゝを魔法使ひに悟られるこお仕舞ですからな。』

『そうじゃありませんよ。』探偵は申しました。『それごゝろか、明日になつたら早速有名なシドニー・ホールが四十日以内にはきつみ捕へてみせるご緊い約束をしたごいふ記事を世界中の新聞に出してもらひたいものですネ。それはごにかくごして私はこれで失禮します。』

またその足でホール君はある名高い旅行家のごころへやつて参りました。この人は五十日でこの世界を一周したごいふので大變有名な人でありましたが、ホール君は申しました。『一つ賭をしようぢやありませんか、私は四十日で世界を一周してお目にかけます。』

『駄目、駄目。』旅行家は申しました。『ファクスさんは八

十日で一周したのですが、私は五十日でやりましたよ。これ以上早くしようなんて、ごても無駄ですよ。』

『よろしい、』ホール君は申しました。『では金貨一千枚を賭けませう。』

いよく賭をするごこになりました。

その晩にはもうホール君は出發致しました。そして一週間目にエジプトから電報が参りました。『ツイセキチウホール』

また一週間するご、今度は印度から第二の電報が届きました。『ゼンジセツキンシユビジョオジヨオイサイフミホール』

しばらくするご印度からの手紙が届きましたが、それは誰れにも讀めない難しい暗號で書いてありました。

それからまた八日するご一羽の傳書鳩が首に紙片をつけて日本の長崎から到着致しました。そして紙片には『イマ一イキホール』ごありました。

その次はサンフランシスコからの速達便で、『カゼヒイタソノホカカワリナシナシノヨオイセヨホール』

出發してから丁度三十九日目にはオランダから電報が着きました。『アスバン七ジ十五カヘルナシノヨオイセヨホール』

さていよく四十日目の夜の、七時十五分、列車が大きな音をたて、停車場に到着致しました。その瞬間ホール君はヒヨイミブラットフォームに跳び降りましたが。その後からはあの魔法使ひが——むつつりした蒼白い顔をして伏目勝ちにトボく、隨いて来るではありませんか。探偵達はブラットフォームに揃つて待受けて居りましたが、思はずアツミ驚きの聲を擧げました。魔法使ひは繩一つかけられてるません。ホール君はみんなの方へ一寸手を擧げて申しました。『諸君、今夜クラブで待つてゐてくれ給へ。この男をこれから監獄へ連れ行かなくちやならないから。』そう言つてホール君はタクシーを呼び止めるこ、そのまゝ魔法使ひを連れて乗りこみましたが、ふき何か忘れて居たことに気がついたやうに、車の中から大聲で呼びました。『それから諸君、梨の用意をしておいてくれ給へ。』

そこでその晩は探偵達がすつかり揃つて席に就いた真中

に、上等の梨の實が一皿ホール君を待つて居りました。

みんながすつかり待ち疲ふれて、もう今夜はないのではないかといふやうな話になつた時分に、不意にクラブの戸口が開いて、ひびくヨボくしたマツチ賣りの老人が入つて参りました。

『爺さん、探偵達は申しました。折角だが何にも要らないよ。』

するに爺さんは『へー、それは御氣の毒なこで。』と言つたかと思ふこ。突然に身體中がブルく、慄えだして、咳をするやら、唾を吐くやら、到頭おしまいはひびく噎せかへつて。椅子の中へ俯伏してしまひました。

『オイ、オイ。』一人の探偵が申しました。『まさか死ぬんぢやあるまいネ。』

『イエ、イエ、さう致しまして。』爺さんは苦しさに咳きこみながらやつこ申しました。『俺しやもうたまらないんでがすよ。』言はれてみるこ、成程爺さんは先刻から息のこまるほぎ笑ひ入つてゐるので、それがさうしても止まらないらしいのです。眼からは涙がボロく、落ちる。聲はか

れる、二つの頬つぺたまで蒼くなるくらい笑ひ入つて、まるで唸るやうに申しました。『皆の衆、皆の衆、俺しやもうたまらないんでがすよ!!。』

『オイ、爺さん、探偵達は申しました、』さうしたさいふんだ。』

する爺さんはヨロ／＼立よつて、ノタ／＼卓子の傍へ来たと思ふに、皿の中から一番上等な梨を一つ取上げて、クル／＼皮をむいて、たつた一口にバクリ／＼食べてしまひました。それからやつ爺さんはつけ髻や、つけ鼻や、かつらの白髪や、青い老眼鏡をむしりこつてしまふに、その後から綺麗にカミソリをあて／＼ツル／＼するホル君のニコ／＼顔がヌツ／＼現はれました。

『諸君、』ミホール君は頭をペコン／＼一つ下げて申しました。『腹を立てないでくれ給へ。僕はミにかぐ四十日間さいふもの一切笑はなかつたんだからネー。』

『で君は一體何時あの魔法使ひを捕へたんだい。』探偵達は異口同音に乗り出しました。

『ナニ昨日さ。』ホール探偵は申しました。『だがネ、僕は

最初から奴を一杯食はせてやるつもりでネ、初終心の中ぢや笑つてたんだよ。』

『一體君はさうして捕へた』探偵達はせきこんで申しました。

『ウム、その話は大分長くなるが、』ホール君は申しました。『まあ、この梨を食べてからお話しよう。』

ホール君は梨を食へ終るに、こんな風に話しました。

『諸君、まあ聞き給へ。まづ第一に一番肝腎なことは、ほん／＼に探偵にならうと思ふ者は驢馬のやうな鈍馬ぢや駄目だネ。』と言ひながらホール君はまるで聴手の中に實際驢馬でも居るかのやうに四逆を見廻しました。

『それから、』探偵達は訊ねました。

『それからだつて?』ホール君はうなづきました。『それから、ハシコクなくちやいけない。第三には、また一つ梨の皮を剥きながら申しました。』頭を動かさなくちや駄目だ、諸君はさうして鼠を捕へるか知つてるかい。』

『チーズで捕へるさ。』探偵達は答へました。

『魚は？』

『ゴカイかミミズだよ。』

『ぢや魔法使ひは？』

『サア、そいつはわからない。』

『魔法使ひだつて。』ホール君は苦もなく申しました。『他のものと同じこゝろさ、弱味につけこむんだよ。たゞ何が彼奴の弱點だか、そいつを最初に知ることが肝腎だな。こゝろでサア、諸君は魔法使ひの弱點が何だか知つてるかい？』

『イヤ、知らない。』

『好奇心だよ。』ホール君は申しました。『魔法使ひさいふ奴は何でも出来る。だが恐ろしく好奇心が強いんだ、物好きなんだよ。こゝろでも一つ梨を御馳走にならう。』

また一つ食べ終るミ、話を續けました。『君達は自分達が魔法使ひを追馳けてゐるつもりでゐたらう。こゝろがだ、初終追馳けられてゐたのは實は君達なんだよ。彼奴は初終君達の跡をつけてゐる、一時だつて君達から眼を放すこゝろはないんだ。恐ろしく好奇心が強い、だから君達が彼奴をやつつけようミ頭を捻つてゐる、そいつを彼奴はすつ

かりかぎつけようさいふんだ。だもんで、君達では彼奴の跡を追馳けてゐるつもりか知らないが、彼奴は初終反對に君達の跡を隨いて歩いてゐる。で僕はその好奇心を利用して計略を立てたんだ。』

『計略てのは？』探偵達はひきく意氣込んで參りました。

『そいつはこゝろだ。ナニあの世界一周さいふのは全く遊び半分なんだよ。僕は長い間世界一周をしてみたかつた。』

が生憎さうも機會がない。こゝろが今度こゝへ来てみて、ふみ考へたんだ、魔法使のやつきつミ僕の跡を初終つけて廻るだらう、僕の計略をかぎつけようさ思つてネ。それが彼奴の好奇心なのさ。エートそこで僕は考へた、よし一つ彼奴を御供にして世界を廻つて来てやらう。僕もいろんな見物が出来る、しかも彼奴を初終監督してゐるやうなんだ。つまり彼奴の方で僕から離れるこゝろないだからネ。なほ僕は彼奴の好奇心を一層焚きつけるために、四十日まで捕へてみせるなんて、あゝした賭もしてみたんだ。も一つ御馳走にならう。』

食べるのが終るさまた續きははじめました。『梨ほご美味

しいものはないネ、君。ミこころで僕はピストルを一挺、旅費をいくらか持つて、服装はまあ商賣人さいふ恰好にして、出かけた譯だ。最初はイタリのゼノアへ行つた。あそこへ行つてみるミアルプスの山々がすつかり一目に見えるネ、イヤ、大した高さだな。頂上から石が落ちるミ、君、なにしろ落ちる道中が途方もなく長いので、下へ落着くまでにはすつかり苦だらけになつてしまふさいふんだ。ゼノアからは船でエヂプトへ行つてみようと思つた。

『ゼノアは美しい港町だよ、實に美しい、それで船なんぞはひみりりにドン／＼走るさいふんだ。例へば船だがネ、ゼノアの沖合百哩ばかりまで来るミ、機關かまに火を焚くこども、スクルーを廻すこども止めちまふんだ、帆も無論疊んでしまふ、それでも船の方で早くゼノアへ行きたい、早くゼノアへ行きたいつていふ譯なんだらう、さん／＼ひみりりに動いて行つてしまふさいふんだネ。

『ミこころで僕の船はかつきり午後四時出帆さいふこどもで、僕は三時五十分大急ぎで港へ馳けつけた、ミこころが道で可愛い女の子が一人シク／＼泣いてるぢやないか。

『コレ、コレ、何故泣いてるんだ、——僕はそう訊ねた。『するミ女の子はシク／＼泣きながら、——妾めたい、もう駄目なの——ミこころ言ふんだ。

『で僕は、駄目なんなら、駄目でないようにしなくちや駄目ぢやないか、つて言つてやつた。

『するミ子供の言ふには、お母ちやんが何處かへ行つちまつたの、何處に居るんだか、妾知らないんだ——ミ云つて泣くぢやないか。

『そうか、そいぢやなんでもない、僕はそう言つて、その子供の手を取つてさ、母親を探しに出かけたんだ。物の一時間もゼノア中を馳けすり廻つたかな、まあやつミ母親は見つかつた。ミこころで時間だ、時計を見るミ四時五分。もう僕の船はミつくに出ちまつた筈だ。子供のおかげですつかり丸一日つてものを損しちまつた譯だ。すつかり面白くなくなつて、まあ仕方がない、港までやつて來た、ミこころがさうだ、僕の船が待つてるぢやないか。僕は勿論馳け上つた。船長は僕の顔を見るミ、ヨオ、お客様、御間に合ひましたネ、なんだか少し變なのですがネ、さうかし

て錨が海底にくつ着いてしまつて、丸一時間てものごうしても上らなかつたんですよ。そうでもなくちや無論きつくに出帆してるところですとも。で僕は無論大欣喜さ。だがも一つ頂戴しよう。』

ホール君はまた食べ終るまゝ、いよう、こいつは美味い。

エート、そこで僕等は地中海へ乗り出した譯だ。綺麗だね、見渡すかぎり蒼海で、實際ここからが海で、ここからが空だか分かりやしない。でネ、船にも陸にも到るころ、こゝから海、こゝから空なんていふ貼紙がしてあるんだ、でないさ分からなくなつちまふんだネ。船長の話ぢや、つい先達ても、ある船がさんだ間違を仕出來してネ、海へ乗り出す代りに、空へドン／＼登つて行つてしまつたさいふぢやないか。空にはなにしろ涯がないさ、そのまゝ未だ歸つて來ないつてんだが、無論何處に居るんだか分らん。でまあ僕等は海を渡つて、エヂプトのアレキサンドリアに着いた。

『此處から僕は電報を打つた。それさいふのもつまり魔法使ひに僕が追跡してゐるぞさいふこゝを思はせるためだ

けのこゝさ。だが僕は彼奴なんぞに關つてやしない。たゞ何處へ行つても先生やつぱりついて來てるなと思つてゐた。鷗が船の周りを飛んでゐる時には、それからはるかの空を信天翁が羽搏いてゐるのが見える時には、先生僕の跡をつけてあの中に居るんだなと思つた。魚が海の中からじつと僕の方を見る時には、先生あの眼から僕を睨んでゐるんだなと、そう思つた。それから大洋を渡る燕の群が船の索に止つてゐる時などは、僕はきつとその中で一番美しい奴、あの眞白なのがきつと彼奴に違ひないと思つてた。

『アレキサンドリアからはナイル河を上つてカイロへ行つた。大きな町だ。恐ろしく高いお寺の塔がなかつたら、方角も何も解らなくなつちまふだらう。お寺の塔は随分遠くからでも見へる、みんな遠い田舎家でもそれで方角が解るんだ。』

『カイロからナイル河へ一度水浴びに行つた。なにしろ暑いんだからネ。僕は水着を着てピストルを持つただけで、服は全部岸に残しておいたんだ。ところが大きな鱈の奴が

ノソノソやつて来て衣服も何も、時計からお金まですっかり食べちまつた。僕は馳けつけるなり、ピストルをドンドンドン〜と、六發ばかり打放したんだが、まるで鋼鐵張りのやうに彈丸は皮に當つて彈き返るだけぢやないか。そして鰐の奴は僕を見てゲラ〜笑つてゐる。エート、も一つ貰はう。』

梨を食べ終るゝ、ホール君は續きをはじめました。『君達は知つてゐるかい、鰐つて奴は子供のやうに泣いたり涙を流したり出来るんだ。つまりそれで人間を水の中に誘き寄せろんだな。赤ん坊が水に溺れかけてるゝ、人々はてつきりそう思つて救助に行く、そこで鰐の奴がガブリとやつて食つちまふ。ところがこの鰐はおそろしく年功を経た奴で、子供の泣聲どころぢやない、船乗りのやうに悪態もつけば、歌ひ手のやうに歌も歌ふ。人間同様に話も出来る、何でも回々教に御宗旨替へまでしてゐるゝいふ話もあつた。』

『だが實は少々僕も閉口した。服を金をさられてはさうしたものかミネ。ところがふゝミ傍を見るゝ何處から来た

か、眞黒なアラビア人がヒョッコリ立つてゐて、鰐に話しかけるのだ。オイ、鰐の野郎、貴様はこの旦那の服を時計を呑んぢまつたらう。

『うん、食べたよ。ミ鰐はすましたものだ。』

『するゝアラビア人は怖ろしい權幕で怒鳴つた、この馬鹿野郎!!、あの時計はゼンマイが捲いてないのを貴様知らないのか。動かない時計なんぞ呑んで馬鹿野郎、何になる。』

『鰐の奴も一寸ばかり考へて居たネ。そして言つた。モシ〜旦那、では私がネ、一寸口を開けますから、私のお腹へ手を突込んで下さいな。そして時計を引張り出して、ゼンマイを捲いたら、また元へ返していただきますがネ。』

『で僕は、ヨシ、来た、造作ないことだ、だが僕の手を噛んぢやいやだぜ。エート、そうだ、この棒片をお前の口中へ立てゝ置くゝしよう、そうすれやその汚い口を塞ぐことが出来ないだらうからな、ミ言つてやつた。』

『するゝ鰐の奴は、旦那、私はネ、生憎ですがそんな汚

い口なんぞ持つてやしませんぜ。だが旦那が別にさうしよういふんでなければ、その棒片を顎の間に立て、おくんなさい、そして早くやつておくんなさいよ。

『で僕は無論そうすることに、奴の腹の中から時計は勿論、服から靴、帽子までつかみ出した、そして言つてやつた。お土産だよ、その棒片はそのまゝお前の口の中に置いてやるよ。サア鰐の奴は怒つたネ、さんざ僕に悪口を吐きたいらしいのだが、生憎棒がつつかへて、口が塞がらない。一度は僕を喰つちまはふとした。それから涙を流して到頭僕に憐れみを乞ふらしいんだ、だがそれも出来ない、僕はそこで悠々き服でも着込んで、言つてやつたよ。ヤイ手前の口を見る、知らなきや言つてやらうか、蛆だらけの、泥だらけの、バババババーだ。そして僕は口の中へベツ！と唾を吐いてやつた。奴は口惜し涙をボロ／＼こぼして居たよ。』

『その時僕はふき例の僕を救つてくれたアラビヤ人の方を振返つてみたんだが、その男はいつの間にか消えて失くなつてゐた。ナイル河へ行つてみたまへ、今でもその鰐の

奴は大きな口を開いたまゝ泳いでゐるよ。

七〇

(つづく)

大公孫樹

幼稚園のなかで、季節のうつり變りをはつきりと知らせてゐるものに山の上の大いふがある。

公孫樹といへば、どこでも大かたは太木であるが、こゝのはその中でも著しいもので、神代からそのまゝここに樹つてゐるやうな、太い輪の空洞には數々の神話を秘めてでもゐるやうな氣もして眺められる。

つい四五日前迄は、まだ緑が少しばかりのこつてゐたのに、今日はもうすべて、眞黄いろだ。

裸木のときが、却つて葉にかくれたよりも趣深い木もある。このいてふも冬は又冬で、一本として空しからぬ小枝の交叉が、太い幹の周圍をやさしくとりたまいたのを、窓ごしに眺めたことも思ひ出される。もうちぎだ。

自分のものをほめるわけでは無いが、この大公孫樹がまた幼稚園としてながめるのに、最もいゝ場所にあるので、どうしても見るやうになつてしまふ。ついこども迄も誘つて、殊に此頃は一應何の彼のと話しあふ。

古木といへども、春になれば柔らかな緑が魅みがへるとは思ひながらも、この大公孫樹から冬を思はせられる現^ま前の感傷は、抑へがたいことである。

(十一月十六日 よしこ)

文學士 山本 猛著 (最新刊)

幼稚園 託兒所 保育學綱要

菊 刊 洋 裝
三 七 〇 頁
定 價 金 貳 圓 五 十 錢
送 料 金 十 四 錢

本書は保育學の一般を平明に實際的に概説したもので常に理論と實際の融合を圖り、又力めて主觀的獨斷を避けて客觀的定説に従はうとしてゐる。外篇八章に亘る幼稚園教育史も一應整備したものである。蓋し著者の如き篤學且達識の實際教育家にして始めて能くする所である。實際家の參考書としても、初學者の入門書としても、類書中の最高峰に位置するべきもの敢て本書を幼稚園、託兒所保母の諸姉、保母養成所生徒諸姉、保母檢定受験者諸姉に奨める次第である。

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|---------------|-------|---------------|-------|---------------|-------|---------------|-------|---------------|-------|-------------------|-------|------------------|-------|------------------|-------|---------------|
| 第一章 | 保育の意義及目的 | 第二章 | 保育事業の發達 | 第三章 | 幼稚園の設置及經費 | 第四章 | 幼稚園の職員 | 第五章 | 幼稚園の設備 | 第六章 | 幼稚園の生活形式と保育の根本原理と | 第七章 | 幼稚園の根本形式と保育作用の立案 | 第八章 | 幼稚園の根本形式と保育作用の立案 | | |
| 第九章 | 保育項目の實施 | 第十章 | 養護の方途 | 第十一章 | 幼稚園の施設 | 第十二章 | 幼稚園と家庭及小學校 | 第十三章 | 幼稚園の附帶事業 | 第十四章 | 幼稚園の教育史 | 第十五章 | 幼稚園の教育史 | 第十六章 | 幼稚園の教育史 | | |
| 第十七章 | 近代及中世の幼児教育 | 第十八章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第十九章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十一章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十二章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十三章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十四章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十五章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 |
| 第二十六章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十七章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十八章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第二十九章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第三十章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第三十一章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第三十二章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第三十三章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 | 第三十四章 | 近世保育諸家の幼兒教育思想 |

文學博士 田中 寬 一校閱
文學士 丸山 良 二著

幼兒の心理

幼兒の心の發育の仕方及智能、感情、性格等が外界のどの様な事情で感化するのか其等の最も注意すべき實際上の事柄を保護者、保母一般教育者に易く懇切に説いたものである。

菊 刊 洋 裝
二 二 六 頁
定 價 金 貳 圓
送 料 金 十 四 錢

發行所 東京市四谷區新宿一〇番三友社

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 吉岡郷甫
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 - 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 - 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

- 會ノ開催
- 一、雜誌發行(毎月一回)
 - 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
 - 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
 - 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 - 會長 一名 會務ヲ總理ス
 - 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 - 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 - 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 - 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
 - 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
 - 第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
 - 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

| | |
|------|--------|
| 一ヶ月分 | 金參拾五錢 |
| 半年分 | 金貳圓拾錢 |
| 一年分 | 金四圓貳拾錢 |
| 拾貳冊送 | 料共 |

特等面一頁二等面一頁
 金參拾圓 金貳拾圓
 一等面一頁一頁以下
 金參拾五圓 御新
 神田區駿河臺ノ三品田
 廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)
 昭和九年十一月十七日發
 昭和九年十一月二十日發
 昭和本
 行

幼兒の教育 第三十四卷 第十一號

不許複製 禁止轉載

編輯者 倉橋惣三
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
 印刷者 柴山則常
 印刷所 倉橋杏林舎
 東京市小石川區大塚町三十五
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園協

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六六番

注文規定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には總會一割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

最新刊
 東京女子高等師範學校教授 堀七藏 先生著
 前 附屬幼稚園主事
 現 附屬小學校主事
 四六判四一六頁美本
 口繪寫眞十數葉入
 價二圓八十錢 送十六錢

幼稚園保育の諸問題

一・幼稚園保育上の重要問題の實際的解決指針
 本書は幼稚園經營並に保育實際に關する。(一)理論(二)實際(三)小學校との連絡問題につきて長く幼稚園主事たりし堀先生が現に同一校の小學校主事たる地位より懇説詳述されし絶對無比の名著である。

二・小學校との連絡問題についての詳述は大特色
 (一)小學校入學の準備(二)入學檢定の受け方(三)入學檢定の所感(四)入學檢定の結果(五)小學校入學に關しての注意(六)小學校入學後の考察等についての詳述は本書のみの最も權威ある特色である。

三・理論的見地に立ち保育實際に理論付けらるる
 兎角、母の愛の如く嫻々しくのみ陥り易き保育實際に父性愛の或る強さを加へたる如く明晰なる理論を以て保育實際に理論付け且其の進むべき方向を明示する。此點より見て本書は又稀なる權威書である。

内容目次

- 第一 幼稚園の目的論
- 第二 保育時間に關する問題
- 第三 幼稚園の設置
- 第四 幼稚園の經營
- 第五 保姆の養成機關
- 第六 新入の幼兒保育

- 第七 幼兒の生活
- 第八 汽車中に於ける幼兒
- 第九 幼兒の身體的保障
- 第一〇 幼兒の運動遊戲
- 第一一 幼兒の唱歌遊戲
- 第一二 幼稚園に於ける唱歌
- 第一三 冬の保育
- 第一四 觀察のさせ方

- 第一五 新入幼兒(第一期保育)
- 第一六 二期に於ける「觀察」
- 第一七 冬の自然觀察
- 第一八 第三期に於ける觀察
- 第一九 各月の觀察
- ①四月②五月③六月④七月⑤八月⑥十月⑦十一月⑧十二月⑨一月⑩二月⑪三月の觀察

- 第二〇 保育項目にある談話
- 第二一 フレーベル恩物
- 第二二 モンテッソリの遊具
- 第二三 保育項目にある手技
- 第二四 小學校へ入學
- 第二五 小學校に於ける入學檢定
- 第二六 校學檢定の所感
- 第二七 入學檢定の結果

東洋圖書株式會社發行

東京市神田區保神一丁目六十七番地
 振替東京一〇三〇七番

クリスマス・年末・お正月!

嬉しい季節を迎へる手技用品

- ◇ストッキング用織紙——色美しい純日本紙の織紙の
 査下 五十組 金七拾錢
- ◇星——金紙、銀紙を打ちぬいた輝く星、
 大小二種 一箱 金參拾錢
- ◇柘の葉——濃緑まじり色の葉、紅い圓
 い實を添へたもの 一箱 金參拾錢
- ◇お誕生祝の鯛——極彩色の
 鯛をその形に打ち抜いた
 美しいカード
 百枚 金壹圓八拾錢
- ◇後藤連繫紙——菊、楓、
 柘の三種、色各種連繫裝飾
 用 一箱 金參拾錢
- ◇國旗と日の丸・提灯と日の丸——裝飾用、
 何れも百組入れ 一箱 金拾八錢
- ◇カレンダー縣星形——厚紙銀紙十六種の星形裏紙、
 應用の途多し 五十枚 金貳圓五拾錢
- ◇羽子板材料——桐白木、之にお細工意匠をいたします 十本 金壹圓
- ◇凧の材料——手技として面白く、和紙、竹骨で一組 五十枚 金壹圓
- ◇獨樂の材料——幼兒自身が製作意匠し、廻はせるもの五十個 金壹圓
- ◇カルタ——子供カルタ(參拾錢)・モモトラウカルタ(貳拾五錢)・
 健康カルタ(拾五錢)等幼兒専用の面白いもの。



館ルベレフ 社會式株

番七二八三(33)段九話電・路小川今・田神・京東 店本
番八三九一町本話電・五町後備・區東・阪大 所張出

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可 昭和九年十一月十七日印刷納本
(毎月一) 同 十五 日發行 昭和九年十一月二十日發行

定價三十五錢